

なみだぐまし

五三

なみ立

四七〇

なみと

五二二

寧樂のたむけ

四〇一

なれや

五四

名をのる

四三三

にて

三五〇

にと

三五〇

ニ

に

三五〇

にヲ略シタル

四八四

二句ニ跨レル枕辭

三七五

に一種ノ

三六

爾のト訓ムベキ

四九六

にきぶ

五一

濁れる酒

四〇

にして

四六二

にすとす

四九

には

五五七

に

五五六

に

五五七

に

三六

に

三六

にヲ略シタル

四八四

二句ニ跨レル枕辭

三七五

に一種ノ

三六

爾のト訓ムベキ

四九六

にきぶ

五一

二句五句ヲ同語ニテトムル

四三

格ノ又一格

四五〇

ヌ

野坂の浦

三五六

ぬじま

三六〇

ネ

ねなく

四六

根ふかめて

四九〇

ノ

のにしてトウツスベキ

四七〇

乃にト訓ムベキ

五〇八

乃にト訓ムベキ

三五九

のとせ河

四九六

のとせ河

四三三

は輕ク添ヘタル

四九

は輕ク添ヘタル

四九

はか、はかり

五七

はしきかも

五七

はた布

五六

濱風にノに

三九

濱づと

四三

はも

三九〇

は

四七九

はや(早)

五五

はや人

三五

はり(榛)

三七

髪梳

三六

般(つつみ)

五〇三

班田使

五四

びみやこびノ

四二



ひかばかたみと

五〇三

ひじり酒ニ

四〇四

ひづ 四段ニハタラケル

四〇六

日本

四二二

紐

三六一

奉膳

三三三

ふたがみ山ニ

四七〇

ふたみの道

三三四

藤ノちノ清濁

三三三

藤江

三六三

ふちなみ

四四三

ふちなみの花

四四五

佛足石體

三九一

古家フルヘ

三七八

ほ

四三三

ほこ杉

三七〇

ほとほとに

四七〇

ほにいづ

四三三

眞梶ぬきおろし

四五六

眞木

三九五

まくらく

五九〇

枕辭の一種 ちへなみしきに

四九六

まけ

四六六

まし

四三三

まし下ヘツケル

五七二

まつち山

三九九

みほの浦

三九八

みもろ地名

四六六

みもろ(神殿)

五〇〇

みやこび

四二二

見ゆノ上

三六六

みれどみても

四七〇

みわの埼

三七六

未來ヲ現在ニテ結ベル

四七一

むトイフベキヲめト云ヘル

五〇三

武庫の泊

四八八

むつたまあふ

三九九

むなしきものと

五〇五

眞野

三三七

眞野のかや原

四九六

朝マサリク

三七四

みきに

三六六

御門

四九六

見がほし

四三三

みだれいづみゆ

三六六

水島

三五四

見なくに

三六六

潮シホ

三六四

湖ウミ

三六二

敏馬

三六〇

四四五



メ

むろの木  
むろの泊

五九

めむニ通フ

五二

目かれず

四〇一

めしあきらむ

五七六

モ

もだる

四四五

もちもて

四九

もとな

四〇六

もののふのおみ

四八

百傳いはれ

五〇四

ヤ

やき津

三九〇

八十のみなと

三六一

屋部坂

三七八

山がくる

五九

ユ

山したの

三七九

やまと島

三六五

やまと島根

四〇四

やや

四〇三

ゆニ通フ

三七七

ゆかばこひしみ

四七

歸ユク

三七五

ゆくさくさ

三六八

ゆひのはちしつ

四九二

ゆふ(木綿)

五四六

ゆふけ

五〇八

ゆふこえゆく

三九

ワ

若子

五七

わがせこ男ドチ云ヘル

三五七

吾君

四六二

わくご

四〇七

わすらえなくに

五五

わすれ草

四八

わだ

四八

わたり

三七六

わづか山

五七三

ゐなか

四二

をよニ通フ

四三

をぞニ通フ

四四

をよりニ通フ

四九三

ヨ

ゆふさらす

四八

ゆふだたみ

四九

ゆふなみ千鳥

三七七

ゆゆし

五二

ゆゑに

四九

夜ごもりに

三五五

よすが

五二

よそに見る

四八

よそのみ

五七

世のこと

四三

よろしなべ

五二

夜わたる月

四〇三

角ツノ用

三九六

ヲ 牛



をよりニ通フ 五〇  
 を時ノ下ニ添フル 四三  
 乎之ノ誤トオボユル 四九〇  
 をつ 四三六  
 をとめ地名 三六〇

卷四

ア  
 足占<sup>アツク</sup> 七三三 頁  
 あげぐれ 六三三  
 あごの山 七五二  
 あさに日に 七五五  
 蘆城 六四四  
 あすゆきて 六三二  
 あそそに 六六九  
 あなせ川 七三六

豈 七〇四  
 栗島 六三六  
 あはざる、あはぬ 八二九  
 あはじか 六六六  
 將<sup>マ</sup> 七四四  
 あまざはり 六四八  
 あまづつみ 六四九  
 あめの露霜 七四三  
 あらぶる 六六〇  
 あらめこそノ係ナクテ 七四九  
 ありがつましじ 七三三  
 ありさりて 七六五  
 ありつつも 六五八

イ

あれつぐ 六五  
 沫緒 八二三  
 伊 六六五  
 いきの緒におもふ 七三二  
 いきの緒にして 七三九  
 市柴 七四四  
 市柴 六四〇  
 いつ藻 七九一  
 泉の里 七九二  
 いつもいつも 七九七  
 いなびつま 八〇二  
 いにしへの人 八〇四  
 命にむかふ戀 八〇八  
 岩國山 八二〇

いはふ 七七九  
 いひやる 六七〇  
 いぶかし 七四二  
 いぶせむ 七四六  
 いふヲ添へタル 八二四  
 いふといはなくに 七六五  
 家島 六四〇  
 今しは 七九一  
 いませゆきませ 七九七  
 いめのあひ 七九五  
 いやしきふる 八二九  
 いや日にけに 八〇四  
 一種ノ序 八二〇



異常ナル約  
遊仙窟ニ據レル

六三〇

七五五

七九六

七九七

八〇三

七九一

八八

六五五

七〇〇

八一

七六六

六六六

八二〇

六四六

うつたへに  
うはへなき

八四

七三〇

七六九

七六〇

六五五

六四

七四

八六

六二

六四

八三一

七〇七

六三

ウ

うき寝  
うけふ  
うち橋  
打廻乃里  
うちわたす  
うつくし  
うつくし  
うつくしづま  
うつしく  
うつたへに

エ

焉鳥

オ

老舌いでてよよむとも  
おいなみ  
おうの海  
おとにいづ  
おほに  
大野なる三笠のもり

カ

おほほしく  
おもはぬに  
おもひかね  
おもひすぐ  
おもひやる  
おもふ  
おもふヲ挿メル  
か添辭  
鏡王女  
餓鬼  
かく

七六二

七六一

六三一

七五

七七七

七六四

八三

八三

六元

八二〇

六四三

六九

七一

七三四

八三

七六六

七七七

六七〇

七四

六六

六六

六四

七四

七三

七五

六五五

七〇三



かねてむ  
河上  
河門

七三  
六三  
六六

神ししらすむ  
神もしらすむ

六三

かむかもす

六九

かむ樹

六四

かよりあふ

六四

からに

七五

から人

六八

かりばか

六四

キ

き後世ノクニ當ル  
開にかけて

七五  
七一

きこす

七八

來及キレウ

六六

きそ

六四

木路

六八

木の山

六九

きはみ

六五

きびの酒

六八

卿

六七

く

六五

くしげの内の珠

七一

ク

國世

七六

來夜クヨ

六四

くるべき(蟬車)

七七

黒髪しきて

六三

け

六四

けく

六九

けくも

七一

けくは

七五

けせる

六四

けだしくも

七三

けのころころ

六八

けらく

七九

コ

小石

六三

こぎのすすみ

六〇

萬葉集新考 卷四 ことばの葉

六九

六五

七九

八三

七六

六三

六三

六〇

七〇

七二

六五

七〇

六四

四六三七



タル

ごと

こときよく

ことしもあるごと

言出しは

ことなく

ことなす

言にしありけり

ことのなぐさ

ことはかり

こともつげこぬ

ことよして

こひ草

七四〇

七三二

六五五

七四二

八三三

六六二

六六二

六三三

六三三

七四七

八〇四

六九七

六七三

七七〇

こひすぐ

戀ふノ活

小松

聲なつかしきはしき妻の兒

古風ノ歌

草嬢

坂上郎女ノ婚嫁

さき澤

防人サキモリノゾコ佑

さぐくみ

さざれ

さでの埼

さびつつ

さぶし

七二

七二七

七〇二

七五三

六六六

六六六

八〇六

七五九

六九六

六九六

六五三

七五二

六九〇

六九一

シ

さぶしゑ

さゐさゐ

しかかく

志賀

じか

じかも

しきしぬぶ

しく

しこのしこ草

したゆわれ瘦す

しづみしづまり

してヲ省ケル

死シニ

六七

六三〇

七三四

六六六

六六六

六六六

六四九

八〇二

七六八

七〇六

六三〇

六四九

七〇六

七〇九

七二〇

七〇九

六六八

七六四

七五七

八二九

七九六

七七七

七〇九

七四九

六六六

六六六

七〇六

六八



序歌ノ一體

ス

すがら

すぐとはなしに

すけむ

すすみ

セ

瀬

旋頭歌

リ

そきへ

底にこひなる

袖ときかへて

その歌中ニ指ス所ナキ

その日のきはみ  
樂

六二〇

七三二

七六九

六六六

六〇〇

七三二

六七〇

六七七

六四一

七四〇

七九〇

七〇〇  
六八八

そら

贈答ノ體

俗諺

俗信

六六一

七五七

八二〇

六四五

六四四

七〇一

七〇九

七六六

七三三

七七七

七九〇

六六一  
七二二

たばす

たびまねく

珠衣

たまたまも

玉主

たわやめ

たわらは

路地名ニ添ヘタル

チ

ちから車

千名の五百名

つかさ

つかみかかれる

ツ

六七八

七四〇

八〇三

六三〇

七四五

七四四

七二二

七二二

六六六

六七五

七二〇

七九〇

六七七

七七一

たか空

たかだかに

たかとぶ

竹田莊

太宰大典

ただか

ただにあふ

ただむかふ

たづたづし

たのめて

六六二

八〇四

六六二

八二二

六九九

七三二

六五五

六五五

六六五

七六二

七九六

六三〇

六九二

七五五



月に日にけに

七〇六

四六四二

つぎ橋

七二二

つまづく

六二〇

妻のこ

六七〇

つれなし

七五三

てアマレル

七六一

ては

六八二

テ

てば

七九二

八〇一

ト

てむ、なむ

六七二

轉訛

六八八

と省キテ見ベキ

六四五

と下ノヲ略セル

六七〇

ときじけめやも

七五〇

とぎし心

六三三

途ツ

七三〇

とこよ

七五八

常世國

六六六

刀自

七四二

年なみ

七八四

年にも

七四五

なく、なくに

六九一

なく

六九二

なぐさ漏

七〇一

なげなくに

六三三

なしに

六三三

なぞ

七六八

なづさひゆく

七四八

なにか

六三九

なにせむに

七四九

なね

七九八

なびつま

七九五

由ナホ

六三六

なほやただに

七三七

四六四三

ナ

な嘆辭

六三四

中言

六四四

ながて

七五〇

中淀

六六四

萬葉集新考 卷四 ことばの葉

八三七



なまじひに

七五

戀水

七七

にとニ通フ

八六

にヲハブケル

七四

二首一聯ノ歌

七八

ニ

二句ニ跨レル枕辭

三三

ヌ

ぬニ當レル假字ヲハブケル

六七

ぬか

八二

にしてにて

七九

にと

八三

庭

七四

庭にたつ

六五

二句ニかもヲ略セル

七二

二句に跨レル枕辭

六九

ネ

ねもころ

六八

ぬかも

七〇

貫簧

七二

フ

ふかめて思ふ

七六

ふた鞘

七五

ふたゆく

七九

ヘ

隔莫國

七八

ハ

のちこそ

七六

は輕ク添ヘタル

七三

はたやはた

八三

はつはつに

七四

花がつみ

七〇

はねかづら

七六

はねす

七〇

濱ゆふ

七五

濱をぎ

六九

はも

六三

ヒ

夷守

六六

紐ときさけず

六五

マ

まがなし

六〇

枕かたさり

七〇

まくを

七三

まち酒

六七

まちやかねてむ

七二

まつる(奉)

七三

砂マナ

七四

ホ

穂田

六四

まがなし

六〇

枕かたさり

七〇

まくを

七三

まち酒

六七

まちやかねてむ

七二

まつる(奉)

七三

砂マナ

七四



まに

六六六

眞野

六二〇

眉根かく

六六四

ミ

みがり

六四四

道守

六七〇

みつあひによれる絲

六四六

みつれ

七六一

みなす

七六六

みなせ河

七〇六

みな人

七二一

みならぬ

六六五

みやび

七八二

未來ヲ現在ニテ受ケタル

六四四

七九〇

ム

むし衾にこやがした

六五一

親おやぢ

六六九

無用ノ尾句

六五五

メ

目言

七六七

目をほり

八二八

モ

もむニ通フ

七五五

もぞ

七〇六

もだもあらしを

七四四

もだもえあらねば

六七〇

もとな

六九八

ヤ

藻臥束鮒

七二六

やノオキ處

六九〇

やノカサナレル

七七三

やすの野

六七九

やそとものを

六六六

屋戸

七九七

山たちばな

七五五

やまと路

六七五

ユ

ゆつる(移)

七四四

ゆふかげ草

七〇三

ゆゆし

六四五

ゆるす

七三九

ゆるに

七〇七

ヨ

よしをなみ

七八〇

八二二

ラ

らく

七七〇

らく

八〇三

らくを

七二二

られヲれト云ヘル

七二六

レ

連體格ノ代ニ終止格ヲ用ヒ

六五四

タル



ワ 吾聞にかけてないひそ

わが君

七七一

六七六

七三六

七五〇

七七一

六三三

六七六

八二六

七二六

八二〇

六九元

七二七

七三九

七九九

わび

八〇四

吾君ノ誤カ

六三三

ゑ

六七七

を大船をこぎのすすみに

六八〇

をこの月ごろを

七〇〇

を皆人をねよとのかねは

七二二

を目言をだにもここともしき

七二七

をことのみを

七五五

をよりニ通フ

八二七

小金門

七八四

をそろ

七四四

をちこち

七五八

をみなべしさき澤

七五九

卷五

ア あしけくもよけくも

九四四

あま路

八五七

九九七

九三三

九七六

八五五

九七〇

八四八

九三〇

八四四

九七五

頁

いとのかきて

九七二

いひつてけらく

九七五

います

八四四

今のをつつ

八八三

妹がへ

九一〇

いや

九〇二

遊仙窟ヲ引ケル

九八二

異體ノ長歌

八五四

浮島

九六九

うけぐつ

九四二

うけくつらけく

八五四

うしはく

九七七

内の限

九六六

イ 息だにもいまだ休めず

いたはし

いつくし



うつくし

八五三

うつてて

九四四

うながみ

九六八

うは荷うつ

八八三

うめが花

九七七

浦河<sup>ニ</sup>

九〇六

うるはし

九一〇

うれひ

九七〇

煙霞

八七七

おきその風

九七一

おと鳥<sup>ニ</sup>

八九三

おのがわが

九〇八

オ エ

おほし

八七三

意余斯遠波

八六六

音便

九九五

か添辭

八六二

開衿

八六三

蘅阜税駕

九三三

高明

八七六

かがふ

九七一

かからはし

八五三

かく、、、かく

八六六

樂廣之天

九一〇

かくぞ

八五三

かくのみからに

八四七

かくのみならし

八六三

カ

かくのみや

九五四

かぐろき

八六二

笠沙彌

八九六

かす湯酒

九六九

かた鹽

九六九

勝門比賣

九四三

がてに

九三三

がてぬかも

九二〇

かなヲ添ヘテ聞クベキ

九六九

かむづまり

九五九

かむながら

九七六

から玉

八六二

かりて(糧)

九六三

雁木

八七六

漢語ノ翻譯

九六〇

九陽之休光

八七六

葵藿

九三三

記室

八八〇

きそふ

九七〇

儀棹

九四三

來經

九〇三

來經ゆく

九五四

君第三者<sup>ニ</sup>

八七七

杏壇各言

九三〇

きりたちわたり

九〇七

謹空

八七九



ク

くがね 八五  
くしみ玉 八三  
くだつ 九二  
國のまほら 八五  
くやしかも 八四  
くれぐれと 九三  
過隙之駒 八四  
句中ノ枕辭 九五  
傾延 九三  
けく 九七

コ

犬馬戀主 九三  
子男子ノ名ニ添ヘタル 九三  
國司守 九六  
心そむく 八四  
心ゆ思はぬ 八四  
こせぬかも 八四  
ことごとは 九七  
言だま 九七  
こひしげしるや 八六  
こほしき 九五  
金口正説 八六  
喪明之泣 九五  
さきて輕ク添ヘタル 九八  
さきはふ 九五

ケ

けらく 九七  
けらすや 九五

サ

四德 八四  
しま(庭園) 九六  
緒 九三  
松喬 九三  
書殿 九四  
書院 九五  
准枕辭 九一  
すべもすべなさ 八四  
相撲部領使 九三  
すら 九七  
巢をかく 九七  
瀬 九三  
利チ 八四  
撰定 八六

シ

左琴 八七  
狭カく 九七  
刹ツ 八四  
さつ弓 八五  
さなす 八五  
さまよふ(呻吟) 九七  
さやる 九四  
岫 八九  
しがそれが 九四  
しかとあらぬ 九七  
四蛇 八四  
四生 八四  
しづ鞍 八五

ス

四六五三

セ

撰定 八六



ソ

促膝

八九三

帥老

八九二

タ

泰初之月

九三九

たがねて

八六六

ただ泊

九七六

たちはしり

九七九

たつか杖

八六六

たつの馬

八七三

多仁

八七三

玉島川

九七七

玉手さしかへ

八五五

たもと手もと

八六二

たれ見き

九四三

擠藻

九三〇

智可

九七六

張趙

九三〇

ちりすきず

八九四

ちりまがふ

九〇七

鎮懷石

八八二

都久保里

九九六

つづしる

九九九

つつみなく

九七八

つま屋

八四七

テ

泥洹

八四四

手たづさはり

八六二

てノ前後ニテ主格ノカハレル

八八三

九七六

泥洹

八四一

長戀

九三五

ながる雪ニ

八九六

ながさむる

九六八

なさぬ(不令寢)

八五九

なにせむに

八九九

なべに

九〇八

なほなほに

八五七

なみにしもはば

九二二

奈良路

九三六

なり(業)

八七〇

なりにけらすや

八九五

なりにてあらずや

九〇三

ト

てノ前後ニテ主格ノカハレル 八九七  
と上ノヲ省ケル 八九七  
ととして 八四四

ときはなす 八六六

德音 八七六

床 九三三

とどみ 八六三

とほのみかど 八四四

度目之鳥 八四四

ともし 九七〇

とりつづき 八六〇

とり見る 九六二

ナ

な(魚)

九四〇



なりぬなりぬらし

九六六

二  
にと

八七七

のにして又

九七一

能仁

八四一

の共に

八四四

のみ

八六三

のむ酒トイハデ

九五四

方岳諸侯都督刺史

八九七

忘言

九三六

方丈

八四三

八大辛苦

八四二

鼻ひしびしに

九七〇

濱び

九七六

反歌ノ體

八六六

ひ(邊)

九〇七

二

二鼠

九〇三

にはしくも

九七〇

二毛

八四二

二句ニ跨レル枕辭

八六〇

二首一聯ノ歌

八六二

ぬぎ都流(脱棄)

九二一

布肩衣

八五四

ねやと(閩外)

九七〇

の(野)

九七二

のにして又

九〇七

のにして又

九六九

九六九

九〇七

ヒ

ハ

披雲

八七一

ひた土

九七一

日月

八五四

人國

九五六

人母禰の

九五〇

日のおほみかど

九七六

紐ときさけて

九七九

領巾

九四〇

領巾振山

九四〇

ふせいほのまげ庵

九七一

ふみどの

九四九

復己動詞

九六八

佛足石體

九六五

へ(上)

九四六

ホ

マ

蓬客

九二一

まがふ

九〇七

まされる寶

八五九

松浦川

九二〇

まなかひ

八五八

まひ(賄)

九九七

まよびき

八六三

みくしみたまノ

八八三

みきに

九四四

尾

八六二

みたたし(御立)

九四一

みたまたまふ

九五四

道のおくか

九五九



道のくまみ

九六〇

ヨ よより

九二二

紫石

九四二

夜寝ヨイ

九〇四

メ

めぐし

八五三

よしゑ

八六二

めでのさかり

九七六

世のことなれば

八六六

目をほり

九五六

ら助辭

九六七

モ

もち鳥

八五三

勞緒

九三二

喪なく

九六六

龍門

八八〇

もよ

八五三

力負

八四二

ヤ

やうやう

九五五

略辭格

九五五

やさし

九二〇

倭歌

九四八

やまとの大國みたま

九七七

わがへ(我家)

八九四

ゆに

八四五

わくらばに

九七一

ゆくへしらねば

八五三

わわく

九七一

キ

員外

九二一

をつ

九二一

ヲ

を助辭

八七二

をとこじもの

九六一

九三三

をとめさび

八六二

岡び

九〇七

をへめ

八九三

日本挽歌及詩ハ憶良ガ旅人ノ妻ノ死ヲ悼ミテ作レルニアラザル

八四九

事

古今集ナルみずもあらずみもせぬ人のトイフ歌ノ事

八七七

鎮懷石ノ事

八八二

同

八八四

梅花歌ノ序ノ作者

八九一

員外思故郷歌ト後追和梅歌トノ作者

九二一

同

九二四

遊松浦河贈答歌ノ作者

九二〇

萬葉集新考 卷五 ことばの葉

四六五九



同	九三三
同	九三三
同	九三七
同	九三九
同追和歌ノ作者	九四四
後人追和ノ後字ノ訓	九四五
都帥老ノ事	九三五
吉田宜ノ書牘ハ誰ニアテタルニカ	九三二
天平二年七月十日トイフ日附ノ事	九三三
相撲部領使ノ事	九三三
詠領巾 <sup>ヒレ</sup> 鷹 <sup>フ</sup> 嶺歌ノ作者	九四五
同追和歌ノ者	九四七
書殿餞酒日倭歌ノ作者	九四八
本集ノ歌語ニハ漢語ノ翻譯アル事	九六〇

憶良ノ病

九八三

附録

萬葉集卷第五ノ筆録者

九九九

山上臣憶良年齢考

一〇〇三

### 卷六

ア

朝菜

一〇六頁

朝はぶる

一一二

あすか寺

一一三

あせにて

一〇七

仇まもる

一〇八

味經

一〇九

一一三

天地のより合の限

一一〇

あらくをよみ

一〇八

新世

一一〇

あら人神

一一五

ありがほし

一二四

ありがよふ

一二一

ありよし

一二三

あれつぐ

一二六

あれや

一〇五



青がきごもり 一〇三五

案内 一一三

磯がくり 一〇六六

石上乙麻呂 一一元

石上ふるの尊 一二三

市原王 一二七

射鉤山 二五九

いなみつま 一〇五三

印南野 一〇四六

いふヲ添へタル 一二元

今つくる 一二四

射め 一〇七

いもとせ 一二八

いやとこ葉の樹 一一三

いゆきさくみ 一〇八二

うちはへて 一一六

うちゆく 一二四

うつろひかはり 一二六

うつろひゆく 一二七

うつろふ 一二四

うなび 一〇六

海かたづく 一一一

浦がくり 一〇五

おくまへて 一二四

大埼 一二三

おしなべ 一〇四九

おほならば 一〇三

イ

大能備 一〇九七  
邑美 一〇四六

大宮どころ 一〇四

おほろかに 一〇八六

大わたの濱 一一六

おもひたわむ 一〇七

おもひやすむ 一〇三九

おもふヲ添へタル 一〇五六

おもほえむかも 一〇三三

カ

がからに 一一〇六

がくり 一〇五四

がくり 一〇五五

かけて目にかけて 一一〇

かしこの坂 一一七

梓 一一七〇

かたりにする 一一二

葛城王 一一一〇

がてにする 一〇九

かどうちはなち 一一〇一

門にやどにも 一一五

かには 一一〇二

かは次 一一〇三



かへりにだにも 一二八  
 神からか 一〇四  
 神しみ 一一五  
 神名火 一〇七  
 かもノ置處ノタガヘル 一〇九  
 かもかもせむを 一〇五  
 辛荷島 一〇一  
 からむ、かるらむ 一〇四  
 折木四哭<sup>カヲガナ</sup> 一〇六  
 かり高 一〇九  
 きさ山 一〇三  
 清白濱 一〇九  
 くことよ 一〇五

くことよ 一二五  
 草香山 一〇七  
 久邇宮 一二五  
 久邇都 一二五  
 雲がくり 一〇六  
 栗栖 一〇八  
 元興寺 一〇三  
 句中ノ枕辭 一一一  
 けらしき 一一五  
 けらすや 一〇七  
 ける(著有) 一〇九  
 ける(來有) 一一四

コ

こぎたむ、こぎたむる 一〇五  
 こそ、、らしき 一二五  
 こだかし 一二七  
 ことあげ 一〇三  
 このくれがくり 二七  
 郡部 一〇七  
 古調ノ歌 一二三

サ

ささかしさナドノ 一〇四  
 さかふ 一〇六  
 ささらえをとこ 一〇九  
 さしなみの土左の國 一二四  
 里 一二〇

シ

さひが野 一〇三  
 佐保風 一〇九  
 佐保の内 一〇五  
 さもらふ 一二四  
 殘 一〇六  
 散禁 一〇八  
 散動(みだれ) 一〇四  
 草木ヲ結ブ事 一二三  
 しか、かく 一〇三  
 しかもしきかも 一〇五  
 しがらむ 一二五  
 しでの埼 一二四  
 しぬばく 一二五



四木

一〇六〇

しま(庭園)

一二四

島がくり

一〇五四

島回する

一〇五三

授刀寮

一〇五六

續紀ノ誤

一〇五〇

しら濱

一〇四九

准枕辭

一〇二六

ス

次田温泉

一〇七一

すら

一〇六〇

セ

生(さく)

一〇一八

納

一〇九〇

折木四哭

一〇五六

せめたれば

一二四

せり見ゆ

一二四

俗信

一〇七

俗曰

一二四

手うだく

一〇八四

たかしらす

二五七

瀧の上の御舟の山

一〇三三

たけそかに

二二六

ただごえの道

一〇九〇

ただむかふ

一〇五五

たちかはる

一〇六一

チ ツ

たちかはる

二七五

橋文成

二二五

丹比屋主

二二四

たつ田路

一〇八三

玉津島

一〇三三

手向の山

一一二

路地名ニ添ヘタル

一〇八三

刀

一〇三三

ついでに

一一二

月にけに

一〇四二

つく(繼)

二二九

つたの細江

一〇五五

鉤

一一五

ト

と省キテ見ベキ

一〇七五

と省キテ見ベキ

一〇九六

登時

一〇三三

床磐

一〇三四

土左路

一一三

年ぶかし

二二五

常宮

一〇三三

跡見

一〇三七

ともしゆかし

一〇一六

ともしかも

一〇三三

伴部

一〇八二

動

一〇四九



ナ

とよもす 一二七  
 とる(殺) 一〇八四  
 とわたる 一〇九六  
 長柄 一〇三九  
 名寸隅<sup>ナキズミ</sup> 一〇四六  
 名兒山 一〇七四  
 なごり 一〇八七  
 なづく 一二六三  
 なづさふ 一二二六  
 名におふ 一二四  
 にと 一〇二六  
 二 一〇二七  
 にゆ 一〇三九  
 一〇四三

に同一動詞ノ間ナル

一二四

にヲ略シタル  
二句ニ跨レル枕辭

一〇八三  
一〇六六

ヌ

野のへ

一二四

ネ

鳴<sup>ネ</sup>

一二二

ノ

のにして又

一〇八三

のなるトアルベキ

一二三

野

一〇九六

野<sup>ノ</sup>

一〇九六

野<sup>ノ</sup>

一〇九六

野<sup>ノ</sup>

一〇九六

野<sup>ノ</sup>

一〇九六

ハ

は輕ク添ヘタル

一〇三六

はしけやし

一二三

ヒ

濱備 一二二  
 濱ニツアル歌 一二六  
 はらひばらへ 一〇四  
 ひきのまにまに 一二〇  
 ひさ木 一〇三六  
 純<sup>ヒ</sup> 一二六  
 ひとつ松 一二三  
 ひなべ 一二三  
 ふたぎ野 一二六  
 ふたぎの宮 一二六  
 ふたぎ山 一二〇  
 ふなせ 一〇四  
 船楫 一〇四  
 ふみならず 一二六

マ

ふりさけて

一二八

ふりにし

一二七

まき柱枕辭

一〇三九

眞熊野の船

一〇四

眞熊野の小船

一二七

まし下ヘツケル

一〇三九

又ニツアル歌

一二五

間使

一〇五

松帆浦

一〇四

まな子

一二七

砂<sup>マ</sup>

一二四

まに

一二七

眉根かく

一二七

みきに

一〇三六



三笠山	一〇九三	百樹成 <small>ヒヤクジュウセイ</small>	二七
みかの原	二七六	百船純 <small>ヒヤクフネジュン</small>	二二六
甕原 <small>ミツノハラ</small> の宮	二八〇	や助辭	二三四
みかりぞたたす	二七九	八島國	二八四
みけつ國	一〇七	山したびかり	二七
尊	一四七	日本 <small>ヤマト</small>	二七
水城 <small>ミヅキ</small>	一三三	山のま	二五
三諸著	一〇七六	山邊赤人	二二七
宮つかふ	二七三	ゆきさくむ	一〇八二
未來ヲ現在ニテ受ケタル	二四	ゆくへをなみと	一〇九六
もだに	二二三	湯の原	一〇九二
	二五〇	よろしなべ	二二六
	一〇五六	らしき	二八五

ワ

わすれておもはむ  
わたり

一〇五六  
二二六  
二七二

ヲ

塊ツケ  
變カヘ若カハ反カヘ  
變カヘ若カハ

二五八  
二五五  
二四七

久邇宮在河南説

二七五

卷七

ア

あがく  
あかしのみなと  
あがた  
あきさ  
商自許里鴨  
飽浦  
あさきをや

頁  
二六  
一三三  
一七一  
二五六  
一三五  
二九三  
一四五

萬葉集新考 卷七 ことばの栞

あさけのしほ  
あさけのなごり  
あじろ人  
安達アタタチ  
あだたら眞弓  
足代アタロ  
安太アタタ  
足代すぎていとかの山の

二七六  
二七四  
二六四  
一四〇四  
一四〇五  
一三五  
一三九  
一三八

四六一



あど川 一七五  
あなし川 一三三  
粟島 一三三  
阿婆の野 一四六  
あばやの小舟 一四三  
あまぎらひ 一三一  
天のつゆじも 一五三  
漢女ワノメ 一五九  
あゆち潟 一七八  
あらし 一四七  
あらむ、あるらむ 一六一  
ありつつも 一四六  
荒海アラウミ 一五三

イ

あればあるに 一七八  
あをみづら 一七〇  
伊 一四七  
いかで 一四八  
いきのをにおもふ 一四六  
いざ川 一四八  
いささめに 一四三  
石瀧イササメ 一四三  
いその上イソノノ 一四七  
いそのなか 一四三  
いそ回イソマ 一四九  
いでかへる 一三八  
出見の濱 一三〇  
いとか山 一三七

いとことばくに 一四〇  
いのる 一三三  
いは倉 一四四  
いはとかしはと 一三二  
いはのはし 一三六  
いはばし 一三五  
いはひづま 一三〇  
いはふ 一三三  
いふきく 一三九

ウ

いほりせり 一四九  
今しきは 一四四  
妹が島かたみの浦に 一三七  
妹山 一三九  
いめのわだ 一三〇  
いり野 一三七  
入野川 一三七  
一種ノ序 一四三

家こふらしも 一三六  
家もふらしも 一三七

エ

焉ノ訓 一三六



オ

おきつ梶

一三一

おして

一三三

大荒木野

一四九

大伴

一三三

おほに念ふ

一三四

おほに見る

一四〇

大船に梶しもありなむ

一四五

おほろかに

一六一

おもひしおもへば

一六六

おもふヲ添へタル

一三四

おもほゆ

一六四

が柄に

一三〇

かくしてやなほや

一四八

かくのみか

一三九

具カケ

一三五

かけ(雞)

一四二

かし(杙)

一三五

かしは

一三三

かしふりたてて

一三五

かすみ

一三七

風まもる

一四五

かたしノ活

一三二

かたしは

一三二

片待

一三〇

かたみの浦

一三七

片よりによる

一三三

片岡

一四一

カ

勝野

一六四

梶ひく

一三五

かつて

一三〇

がてぬ

一四八

かなし

一六〇

かなしきが

一四八

金のみ埼

一三三

水カミ

一四七

河のぼる

一四三

かへりくるまで

一四四

神が手

一三三

かむさぶる

一六〇

かむなびの里

一三七

鴨鶴ノ誤ナルベキ

一三九

苅らす

一三二

からゐ

一四九

借高の野

一三三

雉ノ清濁

一四四

さしのうら回カミ

一七〇

衣にかきつけ

一四五

著ほし

一四九

君 第三者ヲ云ヘル

一五〇

君に似る草

一三七



ク

く  
 草深ゆり 一四六  
 草むすぶ 一三二  
 雲居 一三三  
 倉椅川 一三六  
 倉椅山 一三七  
 くりかへし 一三四  
 くるゆく 一四五  
 くれなるにほふ 一三四  
 黒牛 一三四  
 過去ヲ現在ニ云ヘル 一四四  
 けく 一四六  
 一三七

有ク

ける(著有)

ければ

ここしき

ここだ

心にのる

心ゆもおもはぬ

心を思ふ

こす

こちこせ

こつみ

一四六〇

一三五

一三〇四

一三五六

一三六〇

一四〇八

一三九〇

一四六一

一四二一

一四三三

一四七二

一三三九

一三五

一三五

サ

こと(如) 一四六三  
 ことあげ 一五〇  
 言にしありけり 一六〇  
 琴の下樋 一五九  
 ことのなぐさ 一四七  
 ことゆるす 一三三  
 この月 一三〇  
 戀忘貝 一七二  
 さことよ 一三五  
 羅サ 一七七  
 生サ 一四六  
 さきく行く 一三二  
 さく(放)ノ活 一四三  
 ささめく 一四四

シ

里廻シ 一三九  
 さにつく 一四一  
 信シ 一四九  
 雑豆臘シ 一五六  
 さひのくま 一四六  
 さもらふ 一六三  
 去シ 一六六  
 散骨 一七三  
 しが津 一四四  
 志加のすめ神 一三一  
 しかばしに 一三七  
 しく玉ひろひしく 一七四  
 同そがひにねしく 一七〇  
 しし(猪鹿) 一五〇



しし(猪鹿) 一三五  
 完<sup>シ</sup>穴<sup>ノ</sup>肉 一三五  
 しづく(沈) 一三五  
 しづ菅 一三六  
 しぬ原 一三五  
 島津 一九九  
 島のはり原 一四九  
 島廻<sup>ミ</sup>す 一五三  
 しめそめ 一三七  
 しめごろも 一四二  
 倂 一四二  
 與<sup>シヨク</sup> 一三五  
 所心 一四〇  
 信<sup>シ</sup> 一四九

准枕辭

ス

菅の根 一四六  
 菅藻 一四四  
 すぎてよらずに 一五六  
 すだく 一三七  
 渚<sup>ス</sup>鳥<sup>ト</sup> 一三八

セ

すにずて 一四〇  
 住吉の岸のはにふ 一七一  
 すめろぎの神 一六一  
 瀬 一四三  
 せり 一五九

ソ

袖つくばかり 一四五  
 袖觸る 一四七  
 そのヲ挿メル 一三六  
 其業<sup>シノ</sup> 一四四  
 そめしめ 一三七  
 贈答歌ノ體 一四四  
 俗信 一三九  
 たが爲に 一四九  
 たが故に 一三九

チ

激<sup>キ</sup> 一三六  
 たく 一三三  
 たく島 一三三  
 峯<sup>タ</sup> 一三五  
 橘の島 一三九  
 たびゆく人 一三六  
 玉の浦 一三〇  
 たるみ 一三六  
 他作格 一三二  
 知多の浦 一三七  
 ちぬの海 一七〇  
 月たてり 一三七  
 つくよみ壯士 一四七  
 つちはり 一四一

タ



テ

つらはけて 一四〇五  
 つるばみの衣 一三九〇  
 て一種ノ 一三四八  
 てたりしを 一三九二  
 太<sup>テ</sup> 一三三九  
 代<sup>テ</sup> 一三五五  
 ては 一四四五  
 てば 一三四八  
 一三六六  
 一四二四  
 一四四五  
 一四五五  
 一三五六  
 一三四四  
 一三四四  
 一三七三

ト

と省キテ見ベキ 一四四五  
 と上ノヲ省ケル 一三五六  
 と下ノヲ省ケル 一三四四  
 一三七三

とに 一四九  
 と(門) 一三三六  
 と(航路) 一三三六  
 ときはなす 一三三三  
 遂ぐ 一四四七  
 とこしくに 一三六一  
 とどめむに 一三三五  
 となか 一三三七  
 遠里小野 一三七五  
 通し 一三三三  
 遠つあふみ 一三七五  
 と見るく見ゆ 一三三九  
 ともしめづらし 一三六六  
 動<sup>ト</sup> 一三三〇  
 一三六六

ナ

とり見る 一三五三  
 とをよる 一三八一  
 同語重複 一三四四  
 海 一三四四  
 こそ 一三四〇  
 たつ 一三三三  
 ながき心 一四七一  
 なくなくに 一四四五  
 名草山 一三九九  
 なくに 一三七七  
 名兒 一三七三  
 名子江 一三九六  
 なごり 一三七四  
 なしに 一三五五

ニ

名高の浦 一四七七  
 七瀬の淀 一四三三  
 なべに 一三四四  
 默<sup>ナ</sup>然 一三四七  
 なほや 一四一九  
 なみくら山 一三三三  
 なれや 一四九  
 にゆ 一三三六  
 にと 一四四五  
 於<sup>ニ</sup> 一四六六  
 にヲハブケル 一三三六



にヲハブケル

一四三

西の市

一五三

似つく

一四四

新島守

一五三

丹生川

一六五

艶ニホヒ

一四九

二句ニ跨レル枕辭

一三九

二九七

二九六

一三七

一五〇

一六六

一三四

一三三

二首相聯レル歌

二首相聯レル歌

一三九

ぬかも

一七〇

尼ニ

一六一

ねもころもひて

一四〇

野ノ

二九七

後には

一四〇

のみに

一三四

のりにし心

一四六

葉タガ添ヘタル

一三〇

方便海

一三三

露ツル深コ

一三五

はしり井

二四九

はつ(泊)

一六二

ヒ

はつはつに

一三六

はなに

一四六

花たちばなの珠

一四六

甚シ多タ毛モ

一四六

花まつ伊まに

一四七

花ハゑみ

一三四

赤アカ土ニ

一四四

はにふ

一七一

はねかづら

一四八

はふる

一四〇

日笠の浦

一六九

日方

一三三

引津

一三五

ひだ人

一三五

萬葉集新考 卷七 ことばの葉

フ

ひづ(秀)

一四二

人國山

一三五

人のあふ

一七一

ひめすが原

一三四

廣瀬川

一四五

伏超

一五〇

ふたがみ山

一四〇

二代ゆく

一四〇

ふなのりに乗る

一四六

ふりなづむ

一五三

古河

一四六

復フ己ニ動カ詞ヲ

一六一

押オス

一四七

へつかふ

一四六



ホ

邊にもおきにも 一四二〇

細谷川 二四三三

ほとほとしくに 一四六五

真梶 二九二二

真木の葉 二二〇〇

卷向山 二二六六

卷向川 二四三三

まきもく 二二三三

まけて 二二六四

信<sup>マコト</sup> 二四一九

まし 二二六四

ませて 二二五九

又かへりみむ 二二四二

マ

まだらの衣 二二四五

俣將瘦 二四三三

松浦船 二二六九

までに 二二五二

まと方 二二七六

まな子 二二三四

まなご地 二四六六

まみ 二二五四

まもる 二二六八

まよひ衣に 二二五三

みきに 二二九七

ミ

みきに 一四二天

三方の海 二二六八

みくまり山 二二六〇

みごもりに 二四四八

見し君 二四六六

三島江の玉江 二四八八

みなぎらふ 二四六三

潮湖<sup>ウミヅ</sup> 二二〇〇

南洲の細川山 一四〇六

山上<sup>カミノ</sup> 二二五二

みもろつく 二二二六

みもろと山 二二二七

三諸山 二二二六

むかつを 二二四二

萬葉集新考 卷七 ことばの栞

ム

むかつを 一四三三

向舟 二二〇八

むすぶ霧<sup>ニ</sup> 二二四九

紫の名高の浦 一四七七

むろの海 二二三三

めみえ 二二三四

めむ<sup>ヲ</sup>轉<sup>ジ</sup>タル 二二五二

めづらし 二二七二

目ならばす 二二五二

や助辭 二二四九

やノカサナレル 二二四八

也<sup>ヲ</sup>添<sup>ヘテ</sup>書<sup>ケル</sup> 二二四三

四六八五

ヤ

メ



ユ

やつを 一三五〇  
 矢はぐ 一四九  
 八船たく 一三五三  
 やへをる波ニ 一六〇  
 山こえて遠津の濱の 一五四  
 山ちさ 一四六  
 ゆを 一四三  
 ゆに 一三九  
 ゆくくる 一四〇  
 弓削 一四九  
 ゆたにたゆたに 一四〇  
 ゆつきが嶽 一三三  
 ゆふさらす 一四七

ヨ

ゆふの山 一三九  
 結八川 一五三  
 ゆらのみ埼 一三五  
 不令依<sup>コセト</sup> 一四六  
 よど瀬 一六三  
 夜なか 一三七  
 よひ 一三三  
 よびたてて 一七六  
 らく 一四九  
 臨時 一四五  
 略辭格 一四六  
 れやらめや 一四四  
 連體格ノ代ニ終止格ヲツカ 一三九

ワ

ヘル 一三九  
 わがおのが 一三六  
 井 一四九  
 猪名野 一三七  
 猪名のみなと 一三五  
 ゐの上 一四六  
 をよ 一三三  
 をよ 一三六

をぞ

をぞ 一四五  
 乎<sup>ナ</sup>ノ誤ナルベキ 一四六  
 をかのみなと 一三三  
 をすての山 一三〇  
 をちこち 一四四  
 をる波ニ 一三一

古今集みづの面にしづく花の色トイフ歌……………一三九六  
 同たえずゆくあすかの川のトイフ歌……………一四四  
 金葉集あめふればきじもしとにトイフ歌……………一四四  
 盗伐者ヲ罰スルニ斧ヲ取上ゲシ事……………一四六



卷八

ア

秋づけば	一五九四	頁
あさがほ	一五七〇	
朝香山	一五八五	
朝だつ	一六四	
あしき川	一五五五	
あしひき山ノ代	一五三六	
飛鳥の岡	一五八九	
あせみ	一四九〇	
跡もなく	一六四	
あなに	一四九二	
あひとよむ	一六七	
相みつる	一五八九	

あふさわに	一五八〇
あへぬく	一五三〇
あまざはり	一五九七
あまた	一五六一
あまた夜も	一五五九
あまとぶや	一五九
漢 <small>アツカハ</small>	一五五七
雨間	一五五五
菖蒲ヲ玉ト貫ク事	一五五
あゆ	一五四
あゆひむすぶ	一五〇
往 <small>アツカ</small>	一六四一
沫雪淡雪	一五五二

イ

いかが	一六九
いかといかと	一五四八
何如 <small>ナニト</small>	一五〇〇
いきづかし	一五二〇
息のをにおもふ	一五〇
いこじて	一四八八
以前	一六〇
いづくには	一五四
いつしかもノ結	一五〇五
いつしば	一五三〇
いでます來ます	一五六六
いと	一五〇八
いと	一四八九

ウ

いと	一五六二
命にむかひ	一五二二
いはせの杜	一四八四
いはふ	一五二〇
いはもいはむ	一六三
且今 <small>イマ</small>	一五六六
今も	一六三三
妹	一六三六
一種ノ序	一六〇〇
うかねらふ	一六〇
うき事	一五四三
うち添辭	一六三



うち添辭

一四二

うちきらし

一五〇

うつし

一七六

うつる

一五四

閨ウルヒ

一五九

うれたき

一四九

應令

一五六

おくて

一五二

おしてれり

一五二

おしなべて

一六一

大城山オホキヤマ

一五六

おぼつかなし

一五七

大伴旅人ノ年齢

一六二

大の浦

一六六

大原真人櫻井

一六四

おもほゆ

一五三

一五六

一六一

一六二

歌子歌人

一六三

霞カスミきり

一五四

風雲

一五六

風はやみ

一五四

かたしく

一五九

かたみ

一五八

梶柄カキカ

一五二

がてずも

一六四

門田

一六三

がに

一五八

かほ花

一四二

かむなび川

一四六

かもかは

一六七

かもかもすらく

一六〇

漢語ノ翻譯

一六九

漢文學ノ影響ヲ受ケタル

一七〇

漢文調

一五四

ケ

過去ヲ現在ニ云ヘル

一五三

けく

一六五

けくに

一七四

ケタ消

一五九

キ

記夷城

一五六

橘家

一五九



結集

ことしげし

一六〇三

一五四二

けばからば

一五二四

一五五四

けらすや

一五二三

一五三三

叩々

一六八

一五三四

ここにありて

一五九七

一五九一

心ぐき

一五〇七

一五八七

心つくす

一六四六

一五二六

心づま

一六三

一五二九

心ながき

一五三

一五九三

心ひらきて

一六九

一五九一

心もしぬに

一五六

一五五一

心をおもふ

一六二

一四八六

兒島

一五〇

一五七五

如

一六三

一六四

コ

サ

シ

五月の玉

一五二〇

一五四九

佐保路

一四九四

一六二〇

沙彌

一五三

一六六〇

さもらふ

一五三

一六〇一

さよどふ

一六六

一五〇三

さをしかの胸別

一六五

一六〇

肆宴

一六〇

一六五五

しかすがに

一五〇〇

一四九五

しかば

一五〇一

一四九六

じかも

一五八

一五〇六

しく

一六二

一五五九

しくしく

一五〇〇

一五六七

繁

一五七

一六〇

しげみ

一五七

一五九六

四句ノ序

准枕辭

代に

代に

令知

しるく

豎子

しぬぐ

しこ

櫻井王

さきはぎ

さきのををり

さきて輕ク添へタル

崎山

こゆなき渡る

こゆ

こひ寝る

このねぬる

この月頃

木のくれ

言持

ことしげし



ス

過ぎば 一五五

登時トキ 一五四

爾乃ニ 一六二

すみれ 一四九

ソ

袖にこきれつ 一五六

そら 一五六

それ不用ノ 一四〇

僧尼ノ墮落 一五〇

俗信 一四七

タ

たちくく 一五六

たなぎらひノ類語 一六五

たぶ 一五七

田ぶせ 一六一

たぶて 一五六

たもとほり來つ 一五九

たるみ 一四三

たるみの上 一四三

たれ聞きつ 一五九

たを(峠) 一五四

答歌ノ體 一六六

短歌三段 一四七

ちひさわらは 一六〇

ちりのまがひ 一五三

中間の所作ヲ略セル 一四七

月たつまでに 一六三

喚雞ツツ 一六〇

つばすみれ 一五〇

テ

而テ 一五〇

てむ、なむ 一六五

手もすまに 一五五

典鑄正 一五三

ト

頭句、尾句 一四七

とかげ 一五三

ときじき 一六六

とほき木末コノヘ 一四八

とみ 一五一

ともし少し 一五三

ともしめづらし 一五二

ともしゆかし 一六三

豊浦寺トヨウラ 一六八

ナ

長屋王ノ佐保ノ宅 一五九

ながらふる 一四六

なぐ(和) 一四二

なだす(撫) 一七八

夏まけて 一五三

などか 一五三

なにすとか 一四〇

滯ナヒ 一五九

なむ(嘗) 一四八

毛無ナレの岡 一五二

にと 一五〇

ニ



にと 一五五  
 にゆ 一六六  
 にヲハブキタル 一五八  
 にとと相ムカヘル 一四九  
 にくからぬ 一四九  
 西池宮 一六〇  
 にほす 一六七  
 にほふ 一五六  
 二句ニ跨レル枕辭 一五四  
 ぬ 一四八  
 乃ノにト訓ムベキ 一七八  
 のぞみ 一五九  
 望はたえぬ 一五六  
 後には 一六六

の共に 一五五  
 のみ 一五八  
 はぎの花、はぎが花 一六三  
 はしきやし 一六〇  
 はたすすき 一六六  
 はだすすき尾花 一四九  
 はたて(果) 一四九  
 はだれ 一四八  
 早飯サヒ 一四七  
 はなすすき 一六六  
 花づま 一五五  
 はなに 一四八  
 はねず 一五〇  
 一五三

春菜 一四七  
 攀 一五七  
 一四七

反ノ訓 一五五  
 變反通用 一五五  
 一五五

ヒ 人名固有名詞 一六七  
 ひと日ひと夜も 一四〇  
 一よ 一五二  
 日にけに 一四五  
 ひらくる花ニ 一七〇  
 ふさ(多) 一五三

ホ 穂だち 一五九  
 ほどろ、はだら、はだれ 一六五  
 眞神の原 一四八  
 まくむノ延 一六六  
 まづさく花 一六三  
 までに 一五三

フ 夫人 一五〇  
 物色 一五六  
 一六五

ミ 見ませば見なば 一六七  
 見せむ兒もがも 一五九  
 枕辭ノ縁語ヲツカヘル 一七一  
 未来ヲ現在ニテ受ケタル 一五五

へ へだつノ用例 一五二  
 一五九

四六九七



ム

未來ヲ現在ニテ受ケタル 一六〇三  
迎<sup>ムカヒ</sup> 一四九三

むすびし紐 一六三三

むな別 一六二五

めづらしきめでたき 一六〇五

又

一六二六

一六二六

一六〇四

モ

希將見<sup>ノツラシキ</sup> 一六〇四

もむ 一六三三

哭<sup>モ</sup> 一六三三

もだあらず 一六〇〇

用<sup>モテ</sup> 一六〇〇

もちくたち 一五五〇

物色 一五六

もとな 一六二五

ものにもが 一六〇二

黄反<sup>モトツ</sup> 一五五四

もみづ四段活 一六三三

ヤ

や 一六二七

也ヲ添ヘテ書ケル 一五〇一

やは 一五七

山鳥 一六三九

山下風<sup>ヤマノアラレ</sup> 一四九七

ユ

ゆきたむ岳 一五八

遊行女婦 一五三六

ゆたけく 一六二六

ゆり 一五四三

維摩講 一六二二

よそへ 一六五四

攀<sup>ツ</sup> 一五四七

夜のほどろ 一七四

よひ 一五七六

よびたてて 一五四

らくるノ延 一六〇五

らくは 一五〇七

ればるに 一五〇一

連體格ノ代ニ終止格ヲツカ 一六二

萬葉集新考 卷八 ことばの葉

ヘル 一五八

ワ

往來 一六三

戲奴<sup>ワ</sup> 一五二五

渡津 一五七

わわらはに 一五六四

をより 一六二九

乎<sup>ワ</sup>ヲ誤レル 一五六四

小倉山 一六三

小田 一五三

四六九九



尾花さかぶき 一六〇  
をむかひに 一四〇

をりもあらずも 一六二

草木ヲ折リテソレニ言ヲ托ケテ人ニ贈ル習……………一五二  
梅花ヲ春ニモ冬ニモ屬シタル事……………一六三  
梅花ガ雪ニ促サルルヤウニヨメル……………一六四  
天皇ノ御自敬語ヲツカヒ給ヘル……………一六〇  
旋頭歌ノ句ノ落チテ短歌トナレル……………一五四  
同……………一五五

卷九

ア

麻をひきほし 一八元 頁  
足柄の坂 一八三  
葦ノ屋 一八四  
あともひて 一七〇  
粟の小島 一七六  
あへて 一六六  
天のたづむら 一八二

イ

山下<sup>アラレ</sup> 一七六  
ありそ 一六九  
あれやあらめや 一八一  
あれやもあらめやは 一六七  
伊 一八三  
いかが 一七三  
いその浦 一七三  
競<sup>イソッ</sup> 一七〇  
いつがり 一七三  
出立の松原 一六八  
磐がまへ 一八五  
いはひ兒 一八七  
いぶかしき 一七一  
いぶせむ 一八六

ウ

家どころ 一七四  
いほいほり 一六九  
今木の嶺 一八四  
今だにも 一八四  
妹なね 一八四  
射往廻流河副乃 一七五  
いゆしし 一八五  
一種ノ序 一七九  
一時格 一八三  
歌垣 一七八  
うちこえゆけば 一七一  
うちしなひ 一七三  
海上<sup>ウミガタ</sup>の津 一八〇  
うなさか 一七四



菟名日 一八四  
 菟原 一八五  
 味澤相 一八五〇  
 浦 一七三三  
 うるけき 一七四六  
 えり 一八五六  
 焉 一八五二  
 縁語 一七九四  
 奥の手 一七九二  
 後人 一六九三  
 おしねり 一八六九  
 弟のみこと 一八四九  
 おのがむきむき 一八四九  
 おひておびて 一八七〇

エ

オ

風早 一六八七  
 鹿島 一六八五  
 鹿島の崎 一八一〇  
 かすみ 一七三三  
 形 一六九四  
 片おひ 一八五五  
 かたくな 一七四五  
 片足羽河 一七五三  
 かたまつ 一七〇八  
 かなしぶ 一七九九  
 かはごろも扇 一六九四  
 加波流(香春) 一七九三  
 響矢 一六九二

大家野 一六九〇  
 おもひすぐ 一八〇〇  
 おもひやる 一八三〇  
 おもふしぬぶ 一七三二  
 おもわ 一八五七  
 おらぶ 一八七三  
 於乎輕重義 一八〇九  
 かがひ 一七七八  
 懸 一八七五  
 かききらし 一七五五  
 かきはき 一八七六  
 垣ほなす 一八三三  
 かきむすび 一八六六  
 一七四三

カ

キ

神山 一七九五  
 髪たく 一八六六  
 神の御坂 一八四一  
 かみ岳 一六八九  
 神邊 一七六六  
 かむなび 一七九六  
 神依板 一七九六  
 からに 一七五五  
 輕野 一八一〇  
 苅野の橋 一八一〇  
 漢文調 一七七七  
 北卿 一七九二  
 きらきらし 一七三六







者ヲ添ヘテ書ケル

セ 清音ノ字ヲ濁音ノ語ニ充テ

白神

一七三

ソ 焉ソタル菟會

一八四

白崎

一六五

ソ 焉ソ

一八五

白玉の人

一六四

そきへの限

一八五

しらなく

一八七

そこらくに

一八四

しらま弓靱とりおひて

一七五

そのヲ挿メル

一七四

しろたへ衣

一八〇

タ 田

一八〇

准枕辭

一七九

大行天皇

一七六

多珂

一七三

多珂

一七五

ただか

一七六

たかひ(柄)

一八六

ただ目にあふ

一八一

高屋

一七〇

ただ目にみる

一七五

瀧

一七五

たにかはり

一七三

瀧の浦

一七三

たちならし

一七四

たにかがぐ

一七〇

龍田彦

一七〇

田田の

一七七

細ひれ

一七〇

田田の

一七七

ただか

一八〇

田田の

一八二

ただにあふ

一七五

チ 中間ノ所作ヲ略セル

一八三

ただ目にみる

一八三

ツ 墓ツ

一八七

たちかはり

一八三

つがり

一七九

たちならし

一八六

裏ツツム

一八五

龍田彦

一七〇

つまどひ

一八四

手綱の濱

一七五

妻の社ツツ

一六九

玉

一六二

つりほこり

一七四

手まき

一七九

テ て

一七四

多武の山

一七〇

テ て 耀歌ツツ

一七〇

絶等寸の山

一八〇

ト ても

一八五

満有ツツ

一八五

ト 時となく

一七〇

田ツツの

一八五

ト 時も

一八一

ス

四首相聯レル

一七〇

すがるをとめ

一七三

すら

一七四

セ

清音ノ字ヲ濁音ノ語ニ充テ

ソ

焉ソタル菟會

タ

そのヲ挿メル

チ

大行天皇

ツ

多珂

テ

高屋

ト

瀧の浦

田田の

田田の



十  
 とこなめ、とこなみ 一七〇二  
 とこよべに 一七〇七  
 鳥羽のあふみ 一七〇六  
 とびかへり 一七〇四  
 詔 一八六七  
 とぶらひ 一七四三  
 遠妻 一七五六  
 ともしゆかし 一七〇七  
 とをらふ 一七三九  
 同語重複  
 れど 一七二六  
 那賀 一七五四  
 己之<sup>ナガ</sup> 一七四七  
 なかだえて 一八一三

二  
 なが名のらさね 一七二六  
 なかの國 一七五六  
 名木河 一六九七  
 なぐさ漏 一七七六  
 なしのまにまに 一八四六  
 なづさふ 一七六二  
 名におへる 一七六六  
 なね 一八四〇  
 名欲山 一八〇四  
 なる衣ニ 一八一九  
 になるに 一七二七  
 にと 一七三四  
 にヲハブケル 一七四四  
 にはふそまる 一七〇一

二首相聯レル  
 にはふそまる 一八三六  
 二句ニ跨レル枕辭 一六九四  
 一七〇二  
 一七一  
 一六九六  
 一六九七  
 一七七七  
 一七九二  
 一八六七  
 一八六六  
 一八六六  
 一八七七  
 一八二六  
 一七二二  
 一七七七  
 一七五四

フ  
 ははそ 一七二九  
 母のみこと 一八〇一  
 はや 一七九六  
 はる木芽ニ 一七二〇  
 原<sup>ル</sup> 一七九三  
 邊<sup>ヒ</sup> 一七八六  
 衿<sup>ヒキオビ</sup> 一八五五  
 ひきよち 一六九四  
 紐とかず 一八一九  
 紐の緒ときて 一七七一  
 藤白 一六八六  
 古人<sup>フルヒト</sup> 一八三四  
 ふれる、ふる 一八一八



復己動詞

一七二七

眞閒の繼橋

一八六三

ホ

奉出

一七三六

眞閒の井

一八六一

細川

一七〇九

まろ寐

一八一九

細ひれ

一七〇一

ミ

命ミコト

一八四九

マ

信マ

一六九三

みせむ兒もがも

一七六七

まがなしく

一七五三

味澤相

一八五〇

まし下へツツケル

一七七一

満のとどみに

一八〇七

閒使

一七〇四

水江

一七四二

まつがへり

一八二三

水江之浦島兒

一七四一

奉マツル

一七三六

南淵山

一七二二

までにまでは

一八三三

ミ

三名部の浦

一六六五

眞閒の入江

一八六三

身はたなしらす

一七九元

眞閒の繼橋

一八六一

みもろの神

一七九五

三宅

一八一〇

宮どころ

一八三三

ユ

山吹の瀬ユキ

一七〇六

三輪河

一七九五

歸ユキ

一八六六

身をたなしりて

一八六〇

ゆきのすすみに

一八四一

ム

みをの崎まながの浦

一七三三

ゆくさもくさも

一八二五

むた

一八四九

夕わたる

一八〇二

胸別ムネワケ

一七三六

湯羅のさき

一六六六

メ

目串毛

一七三二

ゆりゆりは

一七四七

モ

もだに

一八二一

故、故に

一七九七

も助辭

一八五三

よこごと

一八七〇

もころを

一八七五

よなか

一六九元

社モリ

一七六七

よばひ

一八六六

ヤ

やど、やどり

一六九九

ら一人ニテモ

一八四六

矢ヤナ之木ギ

一七二四

よばひ

一八六六

やは

一八二二

よばひ

一八六六



リ

憊レ 1701

麻ヲテニヲハ

1836

レ 連體格ノ代ニ終止格ヲツカ

焉ヲ をかきつ

1853

ワ わがゆる

1850

小鞍の嶺

1756

ワ 惑人

1845

小倉の山

1611

ワ わくらばに

1826

小崎の沼

1754

ヲ を助辭

1777

處女冢

1843

ヲ 小ヲ

1807

をのうへ

1766

ヲ 緒ヲニヲハ

1830

をばなり

1866

雨ニハふれりト云ハヌ事……………1759

京人ガ海ヲユカシミシ事……………1765

霍公鳥ハ鶯ノ巢ニ卵ヲ生ム事……………1773

旋頭歌ノ句ノ落チテ短歌トナレル……………1801

萩ヲ鹿ノ妻トイフ事ハ集中ニ見エザル事……………1833

卷十

ア

377

あからひく

11014

あすか河

1145

秋去衣

11049

阿太

11085

秋づく

1179

あはなくは

11051

秋つ葉

1124

相見て

1944

秋の香

1137

あひみむ

1945

秋の穂

1129

あへこぐ

11059

秋はぎの戀

1125

阿保山

1935

あけぐれ

1104

天つしるし

11031

擧げてし機

11041

11021



天漢道 二〇七

天のみそら 二〇五

天人 二〇八

山下風 二〇三

あらそふ 二〇八

あらむ、あるらむ 二〇二

ありつつも 二〇九

伊 一九七

巳 二〇四

いかで 一九六

いささめに 二〇六

石 二〇九

いつぎいつぎ 二二五

いつ藻 一九八

いつもいつも 一九八

いはれし 一九〇

家をる 一九〇

且今 二二六

今さらに 二〇五

今者 二二二

今だにも 二〇七

今のななの夜 二〇九

妹が梅 二〇六

妹が心になる 一九五

ウ

色妙子 二〇四

一種ノ序 一九四

座 一九六

うき事あれや 二〇四

うぐひすの春 一九三

うしろもくれに 一九五

うつたへに 一九〇

うつりうつるひ 一九六

代遷 二〇〇

領 一九七

卯花月夜 一九三

うへ山 二〇三

うらごひ 二〇六

うら歎 二〇八

エ

うら歎 二〇四

うらぶれ 二二四

うらわかみ 二〇八

縁語 二二二

おく、おける 一九〇

おひしく(生類) 二〇三

大城山 二二六

大坂 二二四

おぼつかな 二二二

おほに 一九六

おほひ羽 二二二

おほほしく 一九四

思草 二二六

おもひすぎず 二二七



カ

かいの散 <small>すぢ</small>	二〇六
かくなるに	一九六
かくなるまでに	一九九
かげ草	二二三
かけのよろしき	一九〇
霞	一九四
霧 <small>カスミ</small>	一九八
片附居	二二七
かたづく	一九三
かたまけて	三〇九
かたまけぬ	一九六
片山岸	一九〇
片よりに絲をよる	二〇三
かつて	一九九

キ

かりばか	三〇八
歌語	二五七
漢文訓讀ノ語法	一九六
さくきこゆ	三三三
來せば	三二七
木のかげ	一九四
きほひ	三三三
君 第三者ニ	三三七
	二〇六
	三三三
	一九五
霧	一九三
殺 <small>ころ</small>	一九六
來 <small>き</small> ゆく	一九五
草とれり	一九七

ケ

桂かぢ	二二二
がてに	二〇〇
がてぬ	二〇三
がてり	一九七
がね	二二四
かはづ	二二三
河門 <small>カハド</small>	二〇四
河やぎ	一九五
鹿火屋	二二四
かへかはし	二〇四
からより	一九九
辛藍 <small>カサネ</small>	二八三
切木 <small>カキ</small> 四	二〇七

コ

國 <small>クニ</small> 栖	一九七〇
國見	二〇四
くはし	一九七
光儀	二二〇
過去ヲ現在ニイヘル	一九三
けく	二〇三
けりも	二二六
形容詞ノ語尾ヲ略セル	二二九
現在格二種	二〇六
こがくれ	一九四
棹 <small>カサ</small>	二〇五
心つくす	二〇〇
心やる	一九五



こしくもしるし 二〇六九  
 來じとや 二〇一五  
 こせこさせ 一九九一  
 與其 二〇二七  
 如 一九九二  
 ことだにもものらむ 二〇三二  
 ことふらば 二〇三三  
 水田 二〇四九  
 このおく露に 二〇九六  
 このくれ 一九四一  
 木間よりうつろふ月 一九四三  
 こひしくは 二〇三九  
 こひしけく 二〇五二  
 戀の盛 一九九六

戀をつくす 二〇八〇  
 こふらく 二〇三四  
 こもりのみ 二〇一五  
 一。伏三向、一伏三起 一九九九  
 衣かたしき 二〇七一  
 さヲ地名ニ添ヘタル 二〇九三  
 さき輕ク添ヘタル 一九九八  
 三枝 一九五三  
 さきすさびたる 二〇八四  
 さきにさく 二〇三七  
 さきのををり 二〇五四  
 佐紀山 一九四七  
 さくおふる 一九五一

シ

五十戸 二〇七  
 さなかつら 二〇九〇  
 狭野方 一九七六  
 さぬか田 二〇九三  
 多 一九七〇  
 さほの内 一九九五  
 更更 二〇五〇  
 さわたる 一九七五  
 さを舟 一九九六  
 僧 二〇八一  
 しかすがに 二〇八四  
 しかぞ 一九九八  
 しかば 一九四七

しかば 二〇八八  
 しきの野 二〇一四  
 しきる 一九九八  
 しく 二〇六九  
 したおほほし 一九四九  
 したび 二〇六一  
 した念ふ 二〇六九  
 下よはふる 一九五八  
 してヲ補ヒテ見ベキ 一九五〇  
 しぬぐ 一九〇七  
 しぬぬしとと 一九一七  
 島 二〇〇一  
 しましま 一九七一







ト

てもがも 一九八  
 手もすまに 二〇九六  
 と下ノヲ省ケル 二〇五一  
 時じけめやも 一九七八  
 年に 二〇六〇  
 二〇六一  
 年において 二〇五二  
 年の戀 二〇五三  
 年のわたりに 二〇七一  
 とて 二〇三八  
 ととのふる 二〇三三  
 刀爾 一九二一  
 とほ妻 二〇四二  
 友鶯 一九四九

ナ

ともし少し 一九一〇  
 ともしゆかし 二二一八  
 ともしめづらし 二二一八  
 ともし妻 二〇二六  
 ともしむ 二〇三〇  
 とよみ、とよめ 二二三四  
 とよむ、とよむる 一九九一  
 鳥がねけになく 二二二七  
 取石 二二二天  
 とりみる 二〇五〇  
 とををに 一九五三  
 同語重複 一九五三  
 河 二〇四六  
 ながらふ 一九三四

流るる

一九一〇

にヲハブケル

二〇八四

なしになくて

二〇一

二〇五

奈何<sup>ナニ</sup>牡鹿<sup>シカ</sup>母<sup>モ</sup>

二二九

二二九

なづむ

一九〇六

二二七

搓<sup>ス</sup>

二八六

二四九

共<sup>トモ</sup>

一九一〇

二八六

苗<sup>タネ</sup>

二二九

二〇三

なべに

二二五

二〇九

火<sup>ヒ</sup>

二〇三三

一九〇

ニ

にゆ

一九七三

一九七

に時ノ下ノ

二〇七

一九五

ににて

二〇五九

二〇二

にヲハブケル

二〇三

三三〇

二〇六〇

一九一五

二首相聯レル



又

二首相聯レル 一九四七  
焉 二九一  
ぬかも 一九五三

ネ

野木 一九九三  
ねば 二三四  
根ばふ 二四四  
爾 一九二四  
二〇七五

ノ

のにして又 二〇六  
能登川 一九三三  
延言 二〇〇〇

ハ

はきが花、はぎの花 二〇九九  
はぎの遊 二二九

はたもの 二〇六三

はだら 二〇三三

はだれ 二〇三二

はだれ霜 二〇七

はつ芽子 二〇九七

竟 二〇三〇

はなに 二〇三三

濱河 二〇七

はり(萩) 二〇九三

春雨のこころ 二〇〇一

春菜 一九九六

引綱 一九七〇

引船 二〇七五

二〇九九

マ

卷向山 一九〇七  
枉 二〇三六

まけながく 二〇三六

綵色 二〇三三

まちよろこぶ 二〇七三

見がほし 二〇七

水草 一九六三

みごもり草 二二七九

みつれ 二〇七

みなぎらふ 一九二六

みなし河、みなせ河 二〇三三

見まくしもよし 二二四〇

みやこみさと 二二一八

フ

秀 三〇九  
襟 二二五  
紐ときまたむ 二〇六  
紐とく 二〇五  
ふしゐなげきて 一九七三  
夜副衣 二二五  
二上 二三四

ふみ木 二〇六

ふりにし里 二二七

ふるふる 一九七九

復書ノ代再 二二五

べく 二二六

ほとほと 二〇九

ほどろはだら 二〇三

ミ



未來格ヲ現在格ニテ受ケタ

ル

むむに、むを

二〇七五  
二〇五三

もと葉  
ものにもが  
もみだす

三〇四  
二〇三三  
一九四三

紅葉

赤

二〇三四

ム

めづらしき

一九四七

もみづノ活

三〇三五

目をほり

二〇二七

也ヲ添ヘテ書ケル

二〇三三

モ

もだに

二〇二五

八十の舟津

二〇二五

焉

一九四九

やど、やどり

二〇八七

自生

一九五五

柳の眉

一九七

もずの草ぐき

一九五四

山下風

二〇三二

もだ

二〇〇〇

山のま

一九三三

もとつ人

一九九九

ゆかぬこぬ  
ゆきあひの速稻

二〇九

ユ

ヤ

ゆきかへり  
行觸

一九四五  
二〇三七

よひ  
疑

二〇八六  
二〇一〇

ゆざさ

二〇三二

領令通用

二〇三四

夕かたまけて

二〇三五

言

一九九七

夕立の雨

二〇二六

わがせこをなこせの山

一九二一

木綿山

二〇三五

別しらに

一九九七

夕やみ

一九九〇

惑者

二〇二九

ゆめ

一九三六

わがみの嶺

二〇三八

ゆらに

二〇六四

をぞ

二〇五三

ヨ

よす

一九七五

エ

をよ

二〇六六

光儀

二〇七〇

ヲ

をぞ

二〇六四

よなばり

二〇三三

をよ

二〇六六

よなばりの夏身

二〇三三



を時ノ下ノ  
 をちかた人  
 をや

をや  
 乎再入

旋頭歌ノ句ノ落チテ短歌トナレル……………二〇九二

同……………二二一〇

同……………二二五九

霍公鳥ガ花橘ヲ散ラスヤウニヨメル……………一九九四

歸雁ヲ秋部ニ收メタル事……………二二一三

萩ヲ鹿ノ妻トイフ事ハ集中ニ見エザル事……………二〇八六

昔ト今ト物ノイヒザマノカハレル……………二二六

卷十一

ア

あかして

二四四〇 頁

秋がしは

二三四

秋風の千江の浦み

二四六三

あげたく

二四三二

朝影

二二六〇

朝影に我身はなりぬ

二四〇一

朝がしは

二四三三

朝明

二四三三

朝な夕な

二五〇七

足引の山ノ代ニ

二四三六

安太人

二四四七

あたりわたり

二三五

萬葉集新考 卷十一 ことばの栞

あぢきなく

二三八二

小豆

二三八一

不薄

二四六一

跡なき

二三五

足音

二四三

あふさわに

二二九九

阿倍たちばな

二四七六

あま雲のよりあひ

二二九六

あまづつみ

二四三九

天地のより合のきはみ

二五〇一

あらぶる

二四三

ありつつ見れど

二四八五

ありつつも

二四四〇

二四三二







うつつ	二四六	おくまへて	二四六
筌 <sup>ツ</sup>	二五三	おしてりて	二四六
上にいはず	二四九六	おしなみに	三〇九
うましノ活	二四七六	おときく	二四五
うまし物	二四七八	音どろも	二五二六
うまや路	二四七八	おとにきく	二四五
浦箕	二四七〇	おはす	三三六
潤和 <sup>ワ</sup>	三三五	おふさしゆく	三〇三
うれむぞ	三三〇	おほし(平凡)	二五〇
得ず	二四六二	大土	三九二
おきつありそ	二四七一	おほほしく	三九七
おきふるし	二五四	おほろかに	三三三
おきを深めて	二四九六	面形	三七一
おくまけて	三九〇		

カ

おもひかねて	三六一	がつましじ	二四九
思草	二四九	かづら草	三三九
おもひ妻	二四七	がてなくも	三三七
おもふ堆ふ	二五〇九	香取	二六七
かきほなす	三三七	かにかくに	二四九
かくしてやなほや	二五三九	蟹 <sup>ヱ</sup>	二四九
かくだにも	二五四	かねてむ	三三〇
かくのみし、かくのみに	二四八	河上	三三三
かくのみし	二七五	壁草	二五七
影にみゆ	三三九	かへらまに	二五二
笠のかりて	二四二	神をのむ	二四六
		かむなび	二四四



鶏冠草<sup>カウラサキ</sup> 二五〇〇

からを 二五〇〇

かりじめ 二四三三

假なる 二四四四

刈る刈る 二四七四

不問<sup>カレ</sup> 二四三三

キ

きこす 二四五四

所聞<sup>カヨス</sup> 二五一六

きてゆきて 二五三六

きなばゆきなば 二五三二

寸戸<sup>サト</sup> 二五五一

公女<sup>キメ</sup> 二四九二

君女<sup>キメ</sup> 二四八二

君女<sup>キメ</sup> 二四九二

ク

草を髪にたく

くたみ山 二四三三

肥人<sup>ヒト</sup> 二四三六

雲<sup>クモ</sup> 二四三六

雲<sup>クモ</sup> 二四三六

過去ヲ現在ニテ云ヘル 二四六〇

ケ

けく 二四四六

けだし 二四三三

けばかれば 二四三三

建健通用 二四三六

過去ヲ現在ニテ云ヘル 二四六〇

過去ヲ現在ニテ云ヘル 二四六〇

コ

こけかび 二四〇七

極太<sup>コト</sup> 二四八一

こころ 二四九二

こころ 二四九二

こころど 二四九二

心をおもふ 二四九二

こすな 二四九二

こそ、、、き 二四九二

こすな 二四九二

こすな 二四九二

こすな 二四九二

こすな 二四九二

こすな 二四九二

事如 二四九二

萬葉集新考 卷十一 ことばの葉

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四

こと便 二四八四



こもり妻 二四五三

こもり處ド 二五九三

こもりに 二四六六

寒ヒヤ 二四五〇

ころぶしかる 二四九六

衣かたしく 二四九五

衣手かれて 二四三七

辭ヲハブケル歌 二四六六

サ

さおりの帯 二四〇六

さくら麻マのをふ 二四四〇

さす竹 二四九四

さだ 二四六六

さはる 二三四四

さむしつめたし 二四六四

ししを 二五七〇

し一種ノ 二五二三

したる通用 二四〇五

しがてしが 二四三三

鹿のむら友 二四六九

じかも 二四三六

しき浪 二四三二

しし 二四三二

完シ穴、肉 二四三二

准現在、准過去

准枕辭 二四〇八

ス

すくなくも 二四三二

すしたれど 二四三二

すそつく 二四三三

渚鳥スドリ 二五〇八

無スナヒ乏 二四三七

したいぶかしみ 二四〇六

しづはた帯 二四六一

しなひねぶ 二四三六

信逢シヤフ 二四〇九

所殺シヤフ 二四〇九

しにかへる 二四九七

しぬに 二四七二

隠シヤフ 二四七二

しほさゐ 二四七二

標シヤフ 二四七二

しらなく 二四七二

しら濱波 二四七二

しらまなご三津 二四七二

しり草 二四七二



無乏 スナハレ 二二七

すら 二四六

すり衣 二四〇

末の腹野 二四一

セ 正述心緒 二四四

是耳 三四

清音ノ字ヲ濁音ノ語ニ充テ 三四

タル玉豆入 三六

ソ 焉 ソ 三五

ぞ係ニ似テ然ラザル 三六七

そぎ板 タ 二四〇

そつ彦眞弓 二四二

袖觸る 二二九

そのヲ挿メル 二三五

その歌中ニ指ス所ナキ 二三四

染木綿 二三元

ぞも 二二七

空なる戀 二四三

贈答ノ體 二五二

俗信 二六九

三六七

三三三

三三六

三三四

二二九

二二九

俗信

二四〇

二四一

二五九

二五二

二三一

二五七

二四二

二四〇

二四四

二四七

二四七

二五七

二二三

二四二

タ

太 タ

たく

ただちから

正述心緒 タタニ

ただのりに乗る

たち得ぬ

たちてゐむたどき

たづたづし

立月

立水 タケ

桁 タナ

たにぎる

侍樹漏雨

たまさかに

玉ゆらに

たみたる

幣奉 タマヒ

袂をかるる

たゆたふ心

足常 タダ

たれしの人

濁音ノ字ヲ清音ノ語ニ充テ

タル枉

二二九

二二七

二二七

二二七

二二七

二二七

二二七

二二七

二二七

二二七

二二七

二二七

二二七

二二七

二二七



チ

千鳥 二五七  
千重しくしくに 二六八

ツ

月に日にけに 二六九  
早ワトニ 二三五  
夙フトニ 二七〇

ト テ

津守 二四八  
次ノ句ニ跨レル序 二四三  
以ヲ 二四四  
共ト 二四六  
時ともなく 二四五  
常滑トナリ 二四〇  
とこめづらし 二四二  
年にあらば 二三五

とど

四七四〇

とほき心

二四三

豊はつせ道チ

二四九

鶏トリ

二三元

同語重複

二五〇八

つつ

二五二五

髪

二五〇六

緒

二五〇三

ナ

中

二四五五

なかうち

二五二五

長永夜

二五〇九

泣澤

二四七〇

意遣ナササ

二四七三

成らむや

二四三三

成る

二四三〇

なれが主

二四二四

名をおふ名におふ

二四一六

負ナ

二四一三

にとして

二四〇九

にの如く

二四〇四

にヲハブケル

二四九五

二四九六

二四九七

二四九八

二四九九

二五〇〇

二五〇一

二五〇二

意遣ナササ

二四九八

眠ナス

二四九七

鳴ナズ

二四九五

名におふ山菅

二四三三

何しの故

二四〇一

何せむ

二三四五

何せむに

二三四三

二三四四

名にながさえし

二四三二

なほや

二四三〇

なむ

二四二九

二四二八

二四二七

平ナラシ

二四二六



萬葉集新考 卷十一 ことばの葉  
にヲハブケル 一三八〇

四七四二

にはたつみ 三三九三  
にひ衣 二四八六

二句未滿ノ序 三三九五

二句ニ跨レル枕辭 二四〇〇

二首相聯レル歌 二四八一

ぬづ 二五二七

額髮ぬかみ 二四〇八

ぬかも 三三九五

ぬすまふ 二四八六

はも 二三八八

ばや 二五二八

はやき心 二五二九

準人の夜聲 二四七

はやみ早湍 二四七

ひきぬらしすべらかし 二四七

引舟 二四七

ひしびしに 二四七

一道 二四九

日ならへば 二四九

紐鏡 二五七

紐ときあく 二五七

ひもろぎ 二五七

ふかめて 二四四

二四二

萬葉集新考 卷十一 ことばの葉

四七四三

ネ 根ふかめて 二二九

心衷ココロ 二二二

のなる 二二〇

後も 二二五

はた 二二九

はつはつに 二二七

鼻ひ 二二九

鼻ひ鼻ひし 二二九

はにふの少屋ヲヤ 二四六

はねかづら 二四〇

はねず 二五〇

はふるあふる 二五三

濱久木 二四二

ヌ

ぬづ 二五二七

額髮ぬかみ 二四〇八

ぬかも 三三九五

ぬすまふ 二四八六

はも 二三八八

ばや 二五二八

はやき心 二五二九

準人の夜聲 二四七

はやみ早湍 二四七

ひきぬらしすべらかし 二四七

引舟 二四七

ひしびしに 二四七

一道 二四九

日ならへば 二四九

紐鏡 二五七

紐ときあく 二五七

ひもろぎ 二五七

ふかめて 二四四

二四二



ふかめて

二三二

ほか心

三六六

船の名

二四七六

穂に

二四九九

ふりたる君

二三九二

枕うごく

二三四二

振別髪

二三七

枉マギ

二三八八

ふる家ヘ

二五〇七

まけ溝

三四八

經ヰ

二三三

まして

二五三

遍ヘ

二七一

正占

二三七

へ

二三五

真袖

二四〇

べからず

二七七

待出なむかも

二五二六

へだつ、へだつる

二三七

待出ね

二三八

間ヘタラ

二三六

まちなむ

二五四

間ヘタラ

二四一八

間結マツナ

二四九五

篇ヘリ

二三六

間結マツナ

二四一五

ミ

眉マユ根かき

三六九

眉引

三六二

まよふ

三九六

枕マクヲ贈リシ

二四〇六

出月ミカヅキ

三〇三

見しが

二四三

亂れな

二五二

道ゆきぶり

三九四

水驛

二四七七

みづ垣の久しき

二七四

水くくる

二五〇六

實なき言

二五〇六

みなわさかまき

二四一八

身にそふ妹

二四一〇

萬葉集新考 卷十一 ことばの栞

ム

宮路

二四二

見わたしの

三三〇

未來ヲ現在ニテ受ケタル

二四四六

むむを

三六〇

牛鳴ウシノネ

二五三九

むな言

二四〇六

回香ムカ

二四八三

めぐし

二四八三

目言

二四一八

めづらし

二四一八

めづらし

二四一八

めづらし

二四一八

めづらし

二四一八

めづらし

二四一八



めづらし

二四〇三

山菅

二四七六

目なともしめそ

二四〇二

山ぢさ

二四〇八

目をほる

二四〇〇

ゆに

二四〇九

モ

もヲ下ニ讓レル

二四〇六

最

二四〇九

ゆくくる

二四〇三

守山

二四〇七

ゆくへ

二四〇六

もろ乃

二四〇一

ゆたに

二四〇七

ヤ

やうらざし

二四〇九

やしほの衣

二四〇三

息

二四〇七

山さくら戸

二四〇〇

開木代

二四〇〇

ユ

夕ごり

二四〇三

弓とる方

二四〇九

ゆりに

二四〇七

姤

二四〇三

ヨ

よき道

二四〇二

よす

二四〇四

よそにだに

二四〇五

莊嚴

二四〇六

よそふる

二四〇六

夜ならべて

二四〇七

世のはてまでと

二四〇二

ル

所

理

二四〇〇

萬葉集新考 卷十一 ことばの栞

レ

連體格ノ代ニ終止格ヲツカ

ヒタル

二四〇〇

ワ

わがり

二四〇六

別もおもほえず

二四〇三

別もしらず

二四〇九

わく子

二四〇三

わするわすらる

二四〇一

忘貝

二四〇五



忘れてもへや	三七一	崗ざき	三四
われて	二四六	をちかた	二四六
吾なけなくに	二五三	をちかへり	二四二
ゐる舟ニ	二五〇	男じもの	二六二
エ	二四六	少屋 <small>ヤ</small>	二五八
をよ	二四七	をる起居る	二四〇
ヲ	二四四		
を助辭			

古人ハ名ノ絶エムヲ悲ミシ事	二七七
草木ヲ結ビテ自祝ヒシ事	二三四
イニシヘハ寢處ニノミ薦席ヲ敷キシ事	二五六
山鳥ノ妻ドヒノ事	二四四
女ノ名ヲ問ヒシ事	二四七

卷十二

ア

足 <small>ア</small> 占 <small>ウラ</small>	二六七	あさち原茅生	二六八
赤帛	二六七	あさらかに	二六四
あかときの朝霧	二六五	あさらの衣	二六六
あがふ	二七七	足ふむ	二六六
あくる紐ニ	二七〇	小豆なく	二五九
上 <small>ア</small>	二六三	あづまの坂	二七五
朝	二七五	あはめを	二五九
朝影になる	二六二	面知 <small>ア</small>	二六四
薄 <small>ア</small>	二五九	雨霧	二六六
	二六四	雨間	二七三
	二五七	あらずば	二六二
	二六五	未玉 <small>ア</small>	二六〇
		あらた夜	二五八
			二六六



荒津の濱

二七四

ありがよふ

二六九〇

ありさりて

二六七五

ありて

二六七三

ありなぐさめて

二七一

驄馬トウマ

二六七

青垣山

二七二

イ

伊

二七一

いきのをにいきづく

二六九四

いきのをにして

二六二

いそ

二六〇

いで

二七〇九

いとのかきて

二六二

將行イナミ

二六九七

いなむの川

二七二六

命しらすて

二五九七

磐城山

二七五

石田イサダの神

二五七

いはふまつる

二七五

要イヒ

二六九三

いぶかしみする

二六一

家をる

二五七

今も

二五九

いめに夢にし

二五七四

いや

二六六

伊往

二七二四

遊仙窟ニ依レル

二五八四

一種ノ興

二六五四

一種ノ序色にいでず

二六九

同音にいでず

二六四三

同楫イナとる間なく

二七五

同

二六三七

ウ

懈ウヤ

二五七六

うたがたも

二五七六

うたて

二五七

萬葉集新考 卷十二 ことばの葉

うたてけに

二六〇四

打麻

二六七

うつしけめやも

二七三

うつし心

二七三

うつせみの

二六一〇

うつろふこころ

二六一

うませ

二六六

懈ウヤ

二六八五

うらごひし

二七三

うらなし

二七二

うらぶれて

二六二五

うらもなく

二五九三

おくかなく

二七〇七



おくかもしらす 二六五

おのれ汝 二六六

おほかたは 二六五

おほきみの 二六九

おほろかに 二六六

乳母<sup>モ</sup> 二五九

おもがはりせず 二七五

面高ぶた 二六七

おもはく 二七六

干念<sup>オモヒニ</sup> 二七〇

おもほゆ<sup>ガヲ受ク</sup> 二七三

かくて來じとや 二六五

かくるつまどふ 二六九

かしこし 二五六

かたみしてかたんじて 二七四

かつて 二七九

かにげく 二五五

百爾千爾<sup>カニカクニ</sup> 二六九

かねてむ 二六五

替<sup>カヒ</sup> 二六七

かへりみに 二七〇

神ししらすむ 二六八

かむさぶる 二六六

青頭鷄<sup>カモ</sup> 二六四

かるかるかりつ 二七九

企救<sup>キウ</sup>のたか濱<sup>ナギサ</sup> 二七七

聞<sup>キコ</sup> 二七六

カ

キ

ク

きこせ 二七二

來ふる 二六七

君女<sup>ニ</sup> 二七〇

鉏 二五二

熊野舟 二七五

雲るに 二七三

句中ノ枕辭 二四〇

けく 二五四

けだしくも 二九〇

けひの浦 二七七

今日も 二五九

有<sup>ク</sup> 二八〇

コ

來有<sup>ク</sup> 二八九

こいふす 二〇三

景迹<sup>コトヅ</sup> 二六三

こころぐし 二六六

こころど 二六六

心まどひぬ 二〇八

心をおもふ 二六一

心をもつ 二四七

こしの大山 二六四

こそ、、、へき 二六六

心をもつ 二七六

こしの大山 二六九

こそ、、、へき 二〇八

こそ、、、へき 二五二



毛人髪三

二五九六

こと(如)

二六三三

故

二六五三

こと便

二六七七

言舉せず

二五九九

言どかめ

二五六四

ことはかり

二五七九

此間に

二六〇四

こひしく

二五九三

戀爲便名鴈

二七〇四

戀の奴

二六五七

戀結

二五五五

小松

二五六〇

一伏三起

二六二六

辭ヲ重ネタル

二六六六

作

二五六三

さざ浪

二六六三

さざれ浪

二六五〇

閉

二六九四

さだ

二七一

里の間

二七三三

さにづらふ紐

二七〇五

さひのくま

二六八六

さぶし

二五六六

さやかにさやけく

二五五六

更更

二五六四

シ

准

二六〇七

じ下ヘツツケル

二五八一

しかずけり

二六元

じかも

二七三三

然もありなむ

二六九〇

しかる戀

二七〇四

屢

二七二二

しこのしこ草

二六七二

思許理

二五六四

しし田

二六三四

下紐あけて

二五五三

して

二六〇三

死すらし

二五九四

しぬぶノ活

二五六三

ス

島がくる

二七三三

しらがつく

二六三〇

しらすむ

二六八八

しゑや

二五六四

准枕辭

二六三〇

菅鳥

二六六一

すくなくも

二六八六

すに

二六八四

渚にゐる

二五九四

すべのたどき

二七〇九

すら

二七二六

すべのたどき

二五七五

すら

二六九四



リ

末のなかごろ

ぞ係ニ似テ然ラザル

宗我河

袖のわかれ

その一首ノ中ニ指ス所ナキ

そよに

俗信

俗信

四七五六

二六八

二六九

二六三

二六七

二七〇

二七五

二七〇

二六四〇

二六三二

二六三六

二六九〇

二五六六

二六三一

二七三七

二五九一

二六六

二六〇一

二六八二

二七一九

二七三四

二五五三

二五六三

二六〇三

二五七二

二五五三

二五五

二五七

二五八〇

二五九

ただしくも

たたり(絡槩)

立而居タテマ

立居タテマ

立にも居タテマにも

たどき

だに、さへ

たのむる

たまあふ

玉勝間

玉くしろ

玉の緒ばかり

たむけの山

たるみ

二五九〇

二六七

二五九

二五七

二六八三

二七二

二五五

二六六

二六四

二六七

二五六

二六二

二七〇七

二六五

萬葉集新考 卷十二 ことばの栞

ツ

太古ノ語法

濁音ノ字ヲ清音ノ語ニ借レ

ル 誰葉野

川ツ

筑紫路

常のことば

つるつるを

海石ツ榴市イ

つるばみの衣

次ノ句ニ跨レル序

太ツ

てな

時ぞともなし

時となく

二六三九

二六六一

二五九

二七三〇

二六一

二九〇

二六〇五

二六三

二六四二

二五六一

二七一九

二七五

二六六九

四七五七



時なしに

二六三

年月かねて

二六〇九

年に

二六七四

とのぐもり

二六四〇

ともしゆかし

二六九六

取替河

二六七〇

同語重複

二六七〇

つつ

二六九

なかうち

二五九

ながき心

二六四

長くほり思ふ

二六七

長戀

二七四

鳴島

二七二

なぐさに

二六七二

ナ

意遣イサツ

二五四

如何イカニ

二六五

何かも何かは

二五五

如何イカニ

二七二

奈良山

二六八

有アリ

二五九

至アル

二五九

有者アリモノ

二六七

にヲハブケル

二六〇

ニ

にヲハブケル

二六五

二六七

二七七

二七九

二七三

二七四

二五五

にひはりに今はる路

二句ニ跨レル枕辭

二六〇七

二六二

二六元

二六四〇

又

二六五〇

二六五

二句ニ跨レル枕辭

二六八〇

二句未滿ノ序

二七〇

二首相聯レル歌

二六九

心衷ココロニ

二七〇〇

ノのなる

二六六

能登瀬河

二六四

はしき(早)

二六二

花物

二六三

はへて

二六四

はも

二六〇

既イッ

二六五

春ノ長日

二七〇七



ヒ

歴木 ヒキ 二六九  
 斐太の細江 二六四  
 ひつらの衣 二六七  
 ひと國 二五二  
 人目もり 二六六  
 綏 ヒモ 二九五  
 紐あけさけて 二七〇  
 紐ときまけな 二九七  
 紐の緒の心に入りて 二九九  
 ふかめて 二五四  
 ふた(肥馬) 二八七  
 經 ヒ 二五六  
 へた 二六三  
 隔者 二七二

マ

邊にもおきにも マ 二七〇  
 亂 マ 二七六  
 まさか 二六四  
 ませ(馬柵) 二六五  
 眞玉つく 二五五  
 綵色 マ 二六九  
 まちやかねてむ 二六〇  
 松の名 二七五  
 松浦舟 二七〇  
 までに 二七三  
 至于 マ 二六八  
 眞鳥 二七三  
 まなご地 マ 二七一

フ

ヘ

ミ

轉 ミ 二七〇  
 みに通用 二九七  
 みえかへる 二七四  
 みえつげや 二五三  
 水隱 ミ 二六二  
 みそらゆく名 二五六  
 皆人 二七三  
 みをつくし 二七二  
 未來ヲ現在ニテ受ケタル 二六五  
 むむを 二六三  
 むた 二六八  
 空言 ミ 二七二

メ

むも 二九〇  
 目こそしぬふれ 二六三  
 目不醉草 メ 二七一  
 めをむを 二五九  
 目をやすみ 二六四  
 面知 二四一  
 もだもあらましを 二七九  
 もとつ人 二六八  
 もとな 二七九  
 もとなや 二六八  
 桃花褐 メ 二六六  
 百重なす 二六〇  
 やそ梶 メ 二七三

モ

ム

ヤ



ユ

屋戸 二五八四  
 ゆに 二六四九  
 往反<sup>ニホカナル</sup> 二六五九  
 ゆくへ 二六七六  
 ゆくへなみ 二六四九  
 ゆくらかに 二七一六  
 夕月 二六三六  
 夕づく夜あかとき闇 二六三五  
 ゆゆしく 二五七五  
 縦<sup>ニルヌ</sup> 二六三五  
 ゆるす 二七二〇  
 ゆゑに 二五七五  
 娠<sup>ニユミ</sup> 二六四三  
 よこす 二五八五

ラ

よしますがよし 二六八二  
 よしき河 二六四〇  
 よそに 二六八六  
 よそのみによそにのみ 二六三三  
 よそのみに 二七〇七  
 よそのみや 二七二三  
 夜戸出<sup>ヨドム</sup> 二六〇四  
 不通 二六二六  
 代にも 二六八〇  
 世の中の人のことば 二五七二  
 よばひ 二五八二  
 ら 二七三七  
 らく 二五九一

ル

所<sup>ガ</sup> 二五五二  
 二六二八  
 二六三六  
 二六四六  
 二六四八  
 二六四九  
 二六五〇  
 二六五五  
 二六五九  
 二六六〇  
 二六六三  
 二六六九  
 二六七〇

レ

連體格ノ代ニ終止格ヲツカ 二五五五  
 ヒタル 二六三〇  
 二六三九  
 二六三三  
 己之<sup>ワガ</sup> 二六三三  
 別しらぬ 二五九九  
 わすれ草 二六七〇

ワ

ヲ 中

度會の大河 二六九八  
 わびて 二六八四  
 われにし胸 二五八六  
 韻ヲ合セタル 二六五三  
 をぞ 二六三四  
 を助辭 二六九二  
 をよ 二六九九  
 をヲ添ヘテ心得ベキ 二七〇〇  
 綬<sup>ワタリ</sup> 二五八九  
 若反<sup>ワチカヘリ</sup> 二六六二  
 をちこちかねて 二五五五

古今集ノあはれてふ言だになくばトイフ歌……………二五五六



雲ヲ見テ人ヲ思ヒシ事……………

二七三二

女ガ名ヲノリシ事……………

二天六八

同……………

二天六九

同……………

二七二七

卷十二 附録佛足石歌新考

ア あと

二七四七

カ 呵嘖

二七五八

あとどころ

二七四八

キ 行道

二七五五

跡主

二七五七

ク くすりし

二七五八

イ いくつかのもの

二七五九

サ 濟度

二七五五

いにし方ちよ

二七五七

相好

二七四八

今の

二七五九

さのこり

二七五三

ウ うやまふ

二七五三

シ しにのおほきみ

二七五九

ス しのぶ

二七五二

ノ のける

二七五〇

すくひわたす

二七四九

のちの佛

二七五三

すら

二七四九

のりのたの

二七五八

ソ そだれる

二七四八

ハ 婆

二七五三

ただに

二七五二

ヘ 覇

二七五二

たに(爲)

二七六〇

マ まうす

二七五三

玉

二七四九

まさ目

二七五二

玉の

二七五七

ますらを

二七五二

たまはな

二七四九

までに

二七五二

ツ つかへまつる

二七五五

まはり

二七五七

ト ともしさ

二七五四

まらびと

二七五八

チ なれり

二七五九

まるでむ

二七五三



をへむ

二七五

ミ みそちまりふたつのかたち 二七四  
メ めだし 二七五  
ヤ や助辭 二七五〇

卷十三

頁

八十ぐさ 二七五  
やよろづ光 二七四  
ユ ゆきめぐり 二七五  
ヨ よき人 二七四

ア

ワ やすが 二七五  
よつのへみ 二七五  
わたす 二七五  
をぢなき 二七五

あきつはの衣 二九四  
あきつ領巾 二八九  
あけのそほ舟 二七九  
阿胡の海 二八〇  
あざね 二七三  
足ふみぬき 二七二  
飛鳥社 二七五  
あせのみこと 二八九  
馬酔木 二七五  
あひかたらめを 二七八  
あへ(得) 二八四

イ

あまぎらひ 二八五  
天雲のゆきのまにまに 二九五  
天地におもひたらはし 二八三  
天地にみちたらはして 二九七  
天地をこひのむ 二八〇  
天のたり夜 二八六  
あらた夜 二七三  
あり立有 二九六  
ありなみ 二八〇  
青雲 二九〇  
あをによし 二九四  
楸イナヅ 二八二  
いかなるや 二八二

いかにかいかが 二八〇  
いぐし 二七六  
いぐるひ 二八二  
いけるすべなし 二七五  
いざわ 二八五  
いしの原 二八六  
甚イナ 二七九  
いたはしいとほし 二九四  
五十槻イナヅ 二七六  
いづみ河 二九〇  
いでたち 二八三  
二九四



いばえたつ 二五四

いは床 二五六

いはばし 二七九

答 二八三

いひづらふ 二八五〇

いひやる 二八八〇

いふヲ挿メル 二八三〇

家道 二九五五

今かへりこむ 二九〇七

射目 二八五三

妹ら 二八七七

一種ノ序長歌ノ 二八八一

二八八三

遊仙窟ニ依レル 二八七

うす 二七六

訝 二九一七

格 二八三

うちはへて思ふ 二八四〇

うち日さす奈良 二七七八

うち日さつ 二八七一

うつくし妻 二八八六

うつくし 二九五五

うなかたふけ 二八二八

うなぐ 二八〇六

うへ 二九一六

うらぐはし 二七六五

酒澤 二九四七

オ

うらぶれて 二八八六

うらもなく 二九四一

殖槻 二九一六

馬ノ價 二九〇〇

海ヲユカシミタル 二七七〇

おぎそ山 二七八二

おきて 二八〇三

おき長のをち 二九一〇

おくか 二八四四

忍坂山 二九一八

おひなめ 二九三四

帯ゆるぶ 二八九九

二九二七

カ

帯を三重ゆふ 二八四二

御 二九一六

大宮づかへ 二七八七

おもひたらはし 二八三三

おもひまつひ 二八四九

垣内田 二八二〇

かこのこゑよび 二七六六

かすかすに 二九三六

かつ 二八二〇

かつて 二八九四

替者 二八九〇

攝 二九〇一

替買ニ借レル 二七八二



替買ニ借レル

二九〇

神山

二七三

神國

二八二

神島

二八五

神のわたり

二九三

神からと

二九七

神ながら

二八三

かむなびのみもろの山

二八五

からを

二七三

キ きこす

二八六

又

二九〇

二八五

ク

きこす

二九四

君女ニ

二八二

公女ニ

二八六

來ゆきて

二八五

清隅の池

二八三

佳麗

二八〇

くはし妹

二八三

くはす

二九三

くひ

二八三

くれぐれと

二七九

黒髪をしく

二八五

黒馬

二八六

ケ

黒馬

二八七

けになく

二九五

煙かすみ

二九六

忌

二八七

こころど

二八六

心もしぬに

二九一

腰になづみ

二八七

こしぼその子

二八三

事時ヲアヤマレル

二八三

言事

二九四

言舉せぬ國

二八二

ことさけば

二九四

言靈

二八七

言ちはひ

二八五

言のいみ

二八五

言の故

二八三

ことはかり

二七四

ことはたなしれ

二八四

ことむく

二七三

將戀奈

二八七

こふ

二八二

こむゆかむ

二九〇

こもり妻

二八四

こゆこせ路から

二八二

析

二七二

一伏三向

二八五

ころもでの眞

二九四

衣手を折返す

二八五



互文

二八三

辭ヲ略セルこよひたれとか

二八四

盛

二八五

さぐもり

二八六

木防己

二八七

左野

二八八

さよばひに

二八九

挿句

二九〇

しがもてしがも

二九一

じかも

二九二

跡位浪

二九三

しきに

二九四

しぐれの秋

二九五

下道

四七七二

二九六

してなして

二九七

師名立

二九八

しなひ

二九九

二二火

三〇〇

しぬぶ(隠)

三〇一

しぬぶめづ

三〇二

數々

三〇三

しみに

三〇四

白木綿

三〇五

しらなく

三〇六

しらねば

三〇七

潭

三〇八

主格ヲ再言ヘル

三〇九

主格ヲ再言ヘル

二八五

准枕辭

二八六

すべ詮

二八七

窮見

二八八

すべのたづき

二八九

酒潭

二九〇

夫ら

二九一

旋頭歌ヲ反歌ニ用ヒタル

二九二

そこは

二九三

その歌中ニ指ス所ナキ

二九四

そら

二九五

萬葉集新考 卷十三 ことばの栞

夕

そら

二九六

大分青馬

二九七

高北のくくり

二九八

たがこと

二九九

高てらす

三〇〇

高はこ

三〇一

瀧の屋のあごねの原

三〇二

正香

三〇三

ただにこすこゆこす

三〇四

ただにゆかすこゆこす

三〇五

たたはしけむと

三〇六

正目

三〇七

四七七三



ただわたり  
たちてゐて  
たちとまり  
たつ月ごとに  
たなぐもり  
たなしれ  
たびのけに  
たへのほ  
たまあはば  
たみたまり  
たむけ草  
たるし通用  
たをり  
太古ノ語法

二九三九  
二九五二  
二九五五  
二九一八  
二八九四  
二八五四  
二九五四  
二九一七  
二八五〇  
二七七三  
二七九三  
二八八一  
二八五三  
二八九〇

チ ちへ浪しきに  
ツ つず通用  
つかへつくり  
仕へまつりて  
調首ツキノサシ  
筑摩さぬ  
つまづく  
つらふ  
つるぎの池  
つれもなき

テ 杖つきもつかずも  
次ノ句ニ跨レル序  
て不用ノ

二八二六  
二八七一  
二九三三  
二七七九  
二九四五  
二九〇八  
二八四九  
二八七九  
二八六四  
二九三二  
二九四八  
二九〇五  
二九三七  
二七八九

てノ前後ニテ主格ノカハレ

ト

と下ノヲ省ケル  
度ト  
とき盛  
時じき  
とぎし心  
とこしくに  
としの八歳を  
年わたる  
外床  
とのぐもり  
ともし

二七八〇  
二九三九  
二八八四  
二八九〇  
二八三三  
二八六九  
二九三三  
二八五三  
二八八九  
二八三〇  
二八九六  
二八三三  
二七六七

ナ

ともし  
とりむけて  
とををに  
己ナ之ガ  
長門の浦  
なぐるさ  
投箭ナガヤ  
夏草を腰になづみ  
なづむ  
浪雲  
火ナ  
なるヲハブケル  
にと

二七七七  
二七九二  
二七六六  
二七九七  
二八〇四  
二九三三  
二九五三  
二八七三  
二八三二  
二八四八  
二八七五  
二七八四  
二七九五



にと

二八三四

爾太遙

二八九二

丹の穂に

二八三四

二句ニ跨レル序

二八三二

にも

二八八三

二句未滿ノ序

二九〇五

にゆ

二八七九

二句未滿ノ序

二九一六

にヲ省ケル

二八三〇

二句未滿ノ序

二八二六

而

二九〇四

沼名河

二八三二

親

二九一三

寝

二八〇九

に戀ふ、を戀ふ

二九二〇

根ばふ

二八五五

金

二九三三

延言

二九二九

にしてし

二七八二

波賀

二七九七

花物

二九五五

はじめてし

二九一八

はふらす

二九三三

はつせ小國

二八九五

神主部

二七七六

人しれず

二八四二

濱菜

二九〇五

人のもる山

二七六五

はり梓

二九二六

角

二九三三

青山

二八七七

ふかめし

二八八一

花ヲ錦ニタトヘタル

二七七一

復己動詞

二八八三

引づらひ

二八七九

へだて屏風

二八五五

久堅の都

二八二四

邊つなみ

二九〇四

ひしと鳴るまで

二八三三

穂積、老

二八〇二

ひた土

二八七二

間

二九一八

日たらしまして

二九一四

間

二八五五

日月、月日

二九〇八

兩方

二九六九

ひづちなく

二九三三

両方

二九四四

ヒ



眞神の原	二六三五	みだえみだれ	二六五三
まぐはし	二七六六	三田屋	二七六六
眞くひ	二六三〇	みちたらはして	二七五七
まさ目	二六三二	道のくま	二七九七
まそみ鏡	二六九六	みづえさす	二七六六
至 <small>マデ</small>	二六九三	みづたでを	二七七八
までヲ次ノ句ヘ送リタル	二六三〇	みなぎらふ	二九四七
までに	二六三六	三野王	二九三三
まな子	二六四二	みぬの山	二六〇三
砌しみみに	二六二六	都しみみに	二九三三
みけつ國	二七八四	みわたしに	二六七七
みこと	二六九六	未來ヲ現在ニテ受ケタル	二九五六
みこのみこと	二九一九	むかぶす	二九三〇
み袖	二六五六	室之江	二六八三

ム

メ

めをむを	二六七八
も互ニ云ヘル	二六〇七

モ

方 <small>モ</small>	二九一七
もとべするべ	二七六五
もみづ	二六四四
百木成 <small>モリ</small>	二六四四
もる山	二七六五
問答二段ノ長歌	二六七一
や助辭	二六七二
やよ	二六三三
や、、か	二六三三
八尺のなげき	二六五〇
八十のこころ	二六四九

ユ

山田	二六四六
八頭 <small>ヤツ</small>	二九三三
山かげ日かけかづら	二七七六
山しろ路	二六九六
やますけり	二六九〇
やまと	二六七三
山邊	二七六六
ゆき來	二六八一
ゆきかへり	二六八一
ゆきの屯	二六八四
ゆきむかふ年	二九三三
ゆきより	二六八四
ゆくへ	二六〇〇
	二六四四



ゆくへ	二九五〇	よりにて	二六九六
ゆくらゆくらに	二六四三	よりよせよし	二六〇五
弓腹	二六八四	連體格ノ代ニ終止格ヲツカ	
夕ト	二九〇三	ヒタル	二七六五
ゆらに	二七〇六		二八三四
ゆららに	二八〇六		二八九〇
故爲	二八一四		二八九三
	二八七四		二八九七
縦 <small>ヨシエ</small>	二六六一	ワ	二六四二
よす	二六八六	己 <small>ツガ</small> 之	二九四二
よそに	二七七一	わしりて	二九三〇
よそる	二八六八	を枕辭ノ	二七七六
世の中の道	二九四三	をぞ	二六六四
よばひに	二八九四	小國	二六五一
			二八九五

をち水  
を祈イノに祈イノ

二八〇七  
二六三三

小治田のあゆ田  
少アヤ屋ヤ

二八二四  
二八三七

匿名ノ才子ガ戯ニ作レル

二八九七

同

二九〇六

大伴家持等ノ古歌ヲ取レルヤウ

二九四三

### 卷十四

ア

アア呼ア

頁

あヲ略セル

三〇七

麻アサひく、麻アサかる

三〇一六

あかみ山

三〇八六

麻緒

三〇九二

あさて

三〇六四

足アサがら

二九八三

あしがら小舟

二九八三

足アサがり

二九八四



足ふむ  
あしほ山  
あす  
あすか川  
あせ

安蘇

あどもへか  
あなゆむ  
あのおと  
あはすがへ  
あはなふ

あまの原ふじのしば山  
あやに  
あやにあやに  
あらがきまゆみ  
あら草だつ  
あらたまの伎倍  
ありそみ  
ありつつ見れば

萬葉集新考 卷十四 ことばの葉

三六六  
三三四  
三〇一  
三〇八七  
二九九〇  
三〇三七  
二九六六  
二九六一  
三〇三三  
三〇六〇  
三〇七〇  
二九六五  
三六一  
三〇一〇

イ

ありつつも  
青雲  
青ねろ  
いヲ略セル  
いかほね  
いかほの沼  
息にぞわがする  
いざせ  
いざねしめとら  
いざよひに  
いたぶらし

四七八三

二九七五  
三〇三六  
三二二三  
三二一七  
三〇六  
三二五二  
三〇三三  
三〇三六  
三〇三〇  
三〇九二  
三〇三三  
三二二三  
三二一七  
三二四九

安蘇

あそ川

あだたらのね

東歌

東歌ノ序歌

あど

あどすすか

三二六  
三〇一六  
三〇一六  
二九五七  
二九六四  
二九七四  
三〇三六  
二九九三  
三〇〇九  
三〇一六  
三〇一四  
三〇〇  
三二七  
三二六



いで 三五二  
 いとのかきて 三四六  
 引 三〇九  
 いなき細江 三〇九  
 いなをかも 二九六二  
 三〇七九  
 岩ぐえ 二九六二  
 いはぐくる 三五四  
 今の 三〇一〇  
 妹なね 三〇一三  
 妹なる 三〇五五  
 妹のら 三三〇  
 異常ナル序 三〇三六  
 三〇一

異常ナル序 三五二  
 同ねじろたかがや 三〇三  
 異常ナル約言しづみ 二九七七  
 同なくる 二九七九  
 同これれ 三三三  
 同あやはども 三三二  
 異常ナル延言おもはり 三三二  
 同ねらはり 三三二  
 一種ノ格うらへかたやき 二九八九  
 同ねろにかすみる 二九七七  
 同ころびき 三三七  
 うちかひ 三〇九〇  
 うつせみの 三〇六五  
 海上郡 二九五九

オ エ

うなび 二九九五  
 うまぐた 二九九六  
 うませ 三三三  
 うらへかたやき 二九八六  
 うらもとなし 三〇一  
 うらもなく 三〇五四  
 うらやすに 三二一  
 うゑこなぎ 三〇二六  
 うゑ竹 三〇八一  
 えだつ 三〇八八  
 おヲ略セル 三〇五六  
 三〇六二  
 三〇七五  
 おく 三〇一四

おく 三〇一四  
 おしべ 二九七四  
 おすび 二九九九  
 おそ著 三二五  
 おそはやも 三〇九九  
 おそぶる 三〇六八  
 おたばふ 三〇三三  
 おほゐ草 三〇一〇  
 おほをそ鳥 三二四  
 おもはり 三二九  
 おもはる 二九六七  
 おもひかねつも 三三〇  
 おもひぐるし 三〇八九







くくだち

二九七九

くくみら

三〇七

草かげのあ

三〇七

口やます

三三四

國はふり

三二〇

桑まよ

二九六

くべ

三二八

くもり沼

二九八六

くろほのねろ

三〇五

句中ノ枕辭

三〇四

句ヲ隔テタル序

三〇六

ケ

けしき心

三〇〇

けによふ

二九六九

けばからば

二九九〇

コ

こがたに

三〇四

ここば

三〇四

こころ

三二五

心の緒ろ

三〇七

心びき

三二七

こさね

三〇六

こそ、、き

三二六

こだる

三〇四

こつみ

三〇四

こと便

三〇九

如ヲ句頭ニオケル

三三三

事さだむ

三〇三

ことなす

三〇六

言につ

三〇七

ことば

三〇五

ことをろはへて

三二七

兒な

三〇三

こなき

三〇六

このくれ

二九六

こやで

三〇九

こられ

三二三

ころく

三二四

ころばえ

三三三

萬葉集新考 卷十四 ことばの栞

辭ヲ略セル准枕辭

二九六

辭ヲ略セル枕辭 眞日くれて

二九八

同坂こえて

三〇九

同はだすき

三二五

辭ヲ略セルあどもへか

三三六

語ノ雅俗

三四三

西

三〇四

齊

三二〇

相模

二九七

さがむねのをみね

二九七

埼玉の津

二九九

さく波

三二〇



ささらをぎ

三〇五

左奈都良

三〇六

左野

三〇八

さねしたまへ

三〇九

さね萱

三〇七

さねさねて

三〇六

さねざらなくに

三〇三

さねしさねてば

三〇八

さねど

三〇七

澤

三〇六

佐波太

二九七

さらさら

二九八

さわゑ

三二二

さゑさゑ

三〇九

さを添辭

三〇三

さをびき

三二六

シ  
し 同一動詞ノ開ニ挿メル

三〇七

しか(牡鹿)

三〇七

しく

三七一

した心

二九八

しだ

三〇一

した雲

三〇八

したばへ

二九七

二九八

したばへ

二九五

しづみ

二九七

してヲ省ケル

三〇六

しば山

二九六

しほ船

三〇〇

しめそめ

三五六

じやも

二九五

主格ヲ略セル

三〇三

准枕辭

三〇九

じやも

三〇八

主格ヲ略セル

三〇三

准枕辭

三〇九

ス

准枕辭

三六四

セ

すがのあら野

二九六

ソ

そ追馬)

三〇三

シ

清濁通用

三〇九

ス

せなの

三〇三

セ

せらしめ

三〇七

ソ

そひ

三〇四



タ

たかだか 三〇三五  
 たぐ 三〇六一  
 ただ手 三〇五〇  
 ただわたり 三〇二六  
 立所<sup>チド</sup>ならず 三四六  
 たつ おひたつ 三〇五六  
 たつ 月 三〇八三  
 たて たたせ 二九六六  
 つかなな 三〇〇〇  
 三〇九六  
 三三七  
 三〇〇五  
 三〇五五  
 三〇四九  
 たまへな

袂のくだり

たゆらに

たよらに

たらちね母ノ代ニ

對象ヲ器セル

ツ

豆<sup>ツ</sup>

津

つかかな

つかふ

月たち

つきよらし

つつみ井

津にをる

三〇六三

三〇〇四

二九八四

二九六二

三三二六

二九五九

二九八三

三〇五六

三〇一一

三〇五六

三〇〇七

三〇四五

三〇四九

二九九四

時

二九九三

三〇三四

三〇一〇

三〇四六

三〇五六

三二一七

二九九五

三〇四五

三〇四九

二九八四

三〇六三

三〇八四

三〇〇一

三二二六

テ

つみからす 三〇六五  
 つらつる 三〇四七  
 つらはく 三〇四七  
 手兒 三〇〇九  
 三〇九三

とこは

とごひたぐひ

年のこのごろ

とぞよ

とど

とののなち

土肥のかふち

とほきわぎも

とほしとふ故志

とほぞく

ともし

ト

手兒のよび坂 三〇五三  
 手づくり 二九八八  
 ととして 三〇一一  
 登ぞノ訛カ 三〇一三  
 三〇三六  
 三〇三七

とが

とがり

三〇四九



とよみとよめ

三〇八一

なすねたまふ

三〇七六

とり見

三〇九三

なせの子

三〇七九

同語重複

三〇九三

ななずして

三〇八三

つつ

三〇九七

ナ

な

三〇一〇

なななむ

三〇一〇

な、あ通用

二九三三

なになな

三〇七〇

なから

三〇四九

なふ不

二九九〇

中麻奈

三〇六七

なふ不

三〇〇六

なくぬ

三〇一一

なふ不

三〇〇六

なごやに

三〇一六

なふ不

三〇一六

なさかの海

三〇〇九

なふ不

三〇〇九

なしに

三〇一三

なふ不

三〇一三

なふ不

三〇八五

なる瀬ろ

三〇八五

なほなほに

三〇九〇

にゆ

三〇九〇

なる生ひつく

三〇九二

にヲ略セル

三〇九二

成る

三〇九四

庭にたつ

三〇九四

なる澤

三〇九七

にひぐはまよ

二九六一

なる

三一一

にひた山

三〇一一

なる

三一一

新嘗ノ忌

三〇〇〇

なる

三二五

丹生

三二五

なる

二九六一

にへ

三〇〇〇

なる

三〇九六

によふ

二九七〇

なる

三〇九六

二句ニ跨レル枕辭

三二二七

なる

三二四

ぬるすべる

三二二七

なる

二九七〇

ぬるすべる

二九七〇

なる

二九七〇

ぬるすべる

二九七〇



ぬるすべる 三〇元

ぬるぬる 二九二

ネ

ねしく 三三二

ねしなくな 二九七

ねしなくよ 三〇七

ねしなくなる 二九七

根じろ高がや 三〇九

ねど(寢所) 三〇六

ねな莫なりにし 三〇四

ねもころに 三〇四

根やはらこすげ 三〇四

ねらはり 三三二

嶺ろ 二九六

ノ

野 二九四

爾 三〇七

のすなす 三〇六

のすなす 三〇五

のすノ異例 三〇六

婆 三〇七

はく(著) 三〇七

はささげ 二九七

はささげ 二九六

はささげ 三〇七

はささげ 三〇七

はさせて 三三三

はじくはづす 三〇七

はしなる 三〇二

はしに 三〇七

はつはつに 三三六

はつ尾 三〇七

はなづま 二九六

はへて 三三六

はも 三二八

はやす 三二九

はりて 三〇八

はり原 三〇五

はり道 三〇四

はり道 三〇一〇

ヒ

はれる 三三六

ひ(邊) 二九七

ひきよちて 三三〇

人さはに 三〇七

人の兒 三〇七

人の里 三三六

ひもとく花 三三二

ひら湍 三三〇

ふ節 三二七

ふじの之婆山 二九六

ふすさに 三〇二

ふたゆく 三二九

へろ 三三三



ホ

穂にでし

三三三

まさか

四七九八

母音ノ顛倒セルよし

三〇七八

三〇一四

同こやで

三〇九九

三〇九七

同いものら

三三三〇

二九八九

マ

まかなるま

二九七七

三二二四

ま(今)

三五三

二九六六

まがなし

三五五

二九六六

まがなしみ

二九六二

三〇九五

まがねふく

三五九

三三九

まぎらはし

三〇一〇

三〇一五

望

二九六六

三五九

まぐはし兒ろ

三〇三五

三二七

まぐはしまど

三〇一九

三〇五一

まくらが

三〇五九

三〇二二

まどほし久し

三二五

みだえみだれ

三六二

まな

三〇七一

見たてし

三二五

眞日

三〇七〇

みなか

三〇二二

まひとごと

三五三

みなせ河

二九六二

まま(崖)

二九八五

身にそふ

三〇九三

眞間

二九八五

みらにら

三〇五四

まもる

三三三

未來格ノ代ニ現在格ヲツカ

三〇一一

まよふ

三〇六三

ヒタル

三〇一四

眞小ごも

三〇四二

又

三六六

ミ

見えみせ

三〇〇四

むだき

三〇一六

みけし

二九六二

むらなへ

三〇一〇

みこしの埼

二九六二

目づま

三〇一九

見ず久にして

三三〇七



モ

めり 三〇六〇  
 も互ニ云ヘル 三〇一四  
 もむ 三〇一七  
 三〇三三  
 三〇三一  
 三〇四三  
 三〇六一  
 三〇九六  
 三〇〇〇  
 三〇三三  
 三〇三〇  
 三〇九四  
 三〇七九  
 三五五  
 三〇〇

百つ 二九八三  
 ももつ島あしがら小舟 二九八三  
 もよ 三四九  
 もる山 三〇四六  
 もろむき 二九九二  
 やヨビカクル 三〇六七  
 や木 三〇六四  
 八十ことのへ 三〇六五  
 山かづらかけ 三〇六九  
 山び 二九七一  
 ゆかくしえしも 三〇三三  
 ゆかめ<sup>△</sup> 三〇七二  
 ゆたに思ふ 三〇一〇  
 ゆづかなへまき 三〇九二

ヨ

ゆつり 二九六六  
 ゆゑに 三〇三七  
 よに 二九八二  
 よを 三〇五九  
 よかば 三〇四四  
 よしこさるらめ 三〇四〇  
 よす 二九九六  
 三四八  
 三三〇  
 三〇三〇  
 三〇一七  
 三〇一〇  
 三〇一三  
 三〇五〇  
 三〇三〇  
 三〇三三  
 二九六四

よらしよろし 三〇四五  
 よらの山べ 三〇五六  
 よろぎの濱 二九八七  
 らいざねしめとら 三〇三三  
 三〇三三  
 二九六三  
 三〇三四  
 ル るひる、よる 三〇三四  
 類音ノ序 三〇三四  
 連體格ノ代ニ終止格ヲツカヒタル 二九六六  
 三〇〇七  
 又 三〇一七  
 三〇三六



連體格ノ代ニ終止格ヲツカ

ヒタル

三〇五

三〇七

三〇八

三〇九

三一一

三二七

三三〇

三三七

三三六

三三九

三〇四

三二二

ワ

わするれや

わすれむ忘れむ

わぬ

わぬ

三二四

三二〇

三〇八

三〇七

三〇二

三二六

三二九

三二七

三〇六

三〇六

三〇六

三〇九

三〇八

三〇八

キ

きぬ

きぬ

きぬ

きぬ

きぬ

きぬ

きぬ

きぬ

きぬ

きぬ

エ

えよ

えよ

えよ

えよ

えよ

えよ

ヲ

を添辭

を添辭

を添辭

を添辭

を添辭

をぐき

乎久佐を

小里

をさをさも

をそ

をつくば

をてもこのも

をど

をにひた山

二九九〇

三〇五九

三二七〇

三三三二

三三三四

三〇〇六

二九七六

三〇一七

三〇四六

答音のとは

をびく

竟ふる

をみね

をら

をる泊れる

をる(尾)

をる(丘)

をるをら

三〇八〇

三三三七

三〇七

二九七六

三三六一

二九九四

三〇七六

三〇八

三二二六

古人ハ物ノ斑ナルヲ好ミシ事

同

山ニ入リテ船ヲ作リシ事

米ヲ春クハ女ノ業ナリシ事

二九七

三〇六二

三〇四

三〇六



米ヲ春クハ女ノ業ナリシ事……………三九

卷十五

ア

あかしつる字乎	三四	頁
あかして	三三六	
秋づく	三四一	
あけてをちより	三六九	
安胡の浦	三三〇	
あさびらき	三九	
あぢま野	三三八	
あともなき	三三〇	
あは島	三三六	
あはずまに	三三七	
あひ添辭	三二五	

イ

あひ添辭	三六七
あまのほつ手	三七〇
あらしあるらし	三〇九
荒津	三四九
ありて	三九六
あるみ	三九二
あれや	三〇一
青やぎの枝きりおろし	三〇三
壹岐ノ訓并ニ名義	三六一
いその間	三二五

いとまなく	三五三
いなみつま	三九
石田野	三六四
いはひ島	三三〇
いはふ	三九二
	三九四
	三三〇
	三四六
	三六三
	三三三
	三三七
	三三五
	三三三
	三三〇

ウ

います	三九二
いませ	三九四
いませ	三〇三
今だにも	三七〇
今もかも	三〇七
一種ノ格秋の夜を長みにかあらむ	三五六
宇氣	三三五
うたがたも	三〇一
うつしけめやも	三〇四
うづしほ	三三三
うへかた山	三七七
うらがなし	三九三
	三〇四
うらへかたやきて	三七一

家づく  
今さらに



オ

おきつみうら 三三七  
 置く 三三六  
 おなじ事 三三九  
 大島 三三九  
 大島の鳴門 三三一  
 大伴 三三九  
 おもひがなし 三三九  
 おもひかねつも 三三七  
 おもひかねて 三三五  
 おもひし思はば 三三二  
 かこの聲よび 三三七  
 風速の浦 三三四  
 可之ふりたてて 三三六  
 かしふ江 三三四

カ

かたまけて 三三五  
 かたやき 三七一  
 神島 三〇一  
 神をこふ 三三七  
 かむさび 三二六  
 かむさぶる 三二六  
 可也山 三三四  
 からの浦 三三四  
 かりほ 三三六  
 韓亭 三五〇  
 きたれり 三三八  
 鬼病 三六二  
 來經 三六六  
 國わかれ 三〇一

キ

心をおもふ 三九五  
 ことつげやらむ 三二一  
 言にぞやすき 三二五  
 言にまさめやも 三九九  
 このあが 三二〇  
 こひしみ妹 三二二  
 小松 三二六  
 こよ 三三四  
 これやこの 三三三  
 さね 三〇八  
 さぶしさびし 三九三

ケ

雲ばなれ 三六六  
 華 三五一  
 過所 三〇五  
 館 三〇〇  
 過去ヲ現在格ニテ云ヘル 三〇六  
 けしき心 三二四  
 けながく 三三〇  
 けふもかも 三三二  
 ける(著有) 三四九  
 遣新羅使 三三九  
 ここば 三五六  
 心がなく 三三三  
 心にもちて 三三七

コ

万葉集新考 卷十五 ことばの栞 四八〇七

サ

四八〇七



ざらなくに

三九四

慥

三九六

シ

し同一動詞ノ開ニ挿メル

三九二

しかま河

三〇六

したびかる

三七五

したゆ

三七九

してヲ略セル

三九

しほさゐ

三八〇

島がくる

三〇〇

しも

三九

新羅奇

三七三

知らなく

三〇三

准枕辭

三五

ス

すくなくも、、なくに

三九

すべのたどき

三三

すむやけく

三〇二

すゑし種

三〇九

招魂

三二四

そこひのうら

三〇三

袖かたしきて

三〇〇

ぞも

三九五

俗習

三三三

タ

太

三三

盪魂

三二四

當所

三八九

疊かもあやまちしけむ

三六二

ただむかふ

三二四

筑紫館

三〇

つくしちの可太の大島

三三

告げむに

三二二

つつむことなく

三九二

つららに

三三

テ

亭

三五〇

門

三〇八

とヲ省ケル

三〇九

とこやみに

三九

年にありて

三四三

とに

三〇二

とほの國

三六三

とほのみかど

三五〇

ト

門

三〇八

とヲ省ケル

三〇九

とこやみに

三九

年にありて

三四三

とに

三〇二

とほの國

三六三

とほのみかど

三五〇

ツ

月人をとこ

三二二

萬葉集新考 卷十五 ことばの栞

チ

魂ふり

三三三

魂よばひ

三三四

たゆたひ來れば

三八三

ちりこすな

三七六

ちりのまがひ

三七五

鎮魂

三二五



とよめ 三五六

同語重複 三九三

ゆゑ 三二四

十 長門ノ島 三〇六

中にへなりて 三二一

長井ノ浦 三二二

なづさふ 三二七

名におふ 三三三

鳴門 三三三

二 にと 三九一

三九二

三九三

三九四

三九五

にと 三五五

にヲ省ケル 三〇〇

又 三三三

又 三三四

又 三三七

又 三四一

又 三四二

又 三四三

又 三四四

又 三四五

又 三四六

又 三四七

又 三四八

又 三四九

ホ ほと手 三三〇

ほとほとしにき 三二八

まうす 三三三

まくは 三三六

まし 三三九

まつりだす 三三二

までに 三三九

まに 三三二

萬開ノ浦 三三六

まりふの浦 三三七

満<sup>マ</sup> 三三五

みき 三三二

三三三

萬葉集新考 卷十五 ことばの乗

四八一

にははす 三五五

にはへる 三三四

二句ニ跨レル枕辭 三七四

二句未滿ノ序 三三四

ぬばたまの妹 三三三

能許の浦 三五三

羽ぐくもる 三九〇

波太(甚) 三〇〇

はなれそ 三〇一

人なぶり 三〇七

ふぢ江 三〇八

ふなのり 三二九

船のにはひ 三三七

ふりたて 三三六



みこし路のたむけ 三九二

道のそらち 三七二

みをびきゆけば 三三四

未來ヲ現在ニテ受ケタル 三九六

むむを 三五七

六鯖 三七四

むた 三四七

むに 三三九

むろの木 三三二

目 三三〇

もて 三九四

もとな 三九二

もなく 三七〇

もみだひ 三六四

もみちの山 三七四

やしほの色 三六三

八十島がくり 三七七

山下びかる 三三三

やまと島 三七五

やみに 三三〇

ゆに 三五二

雪氏 三三九

雪ノ宅滿 三三六

わぶれて 三三六

我を問ふ 三三九

を助辭 三三九

をよ 三三六

を問ふ 三三六

乎等女 三三七

又 三三六

又 三三六

又 三三六

又 三三六

又 三三六

又 三三六

又 三三六

ワ 忘れておもへや 三三五

ヨ 夜あかしも 三三六

よくる 三三六

ゆだね 三三三

ゆゆしき 三三三

ゆくへをしらに 三三四

雪ノ宅滿 三七一

雪宅滿ノ墓 三三三

鏡ヲ手ニ卷キシ事 三三四

古事記ノやまとへにしふきあげてトイフ歌 三三六

卷十六

ア あ韻ノお韻ニ轉ゼル 三三六

萬葉集新考 卷十六 ことばの栞

あから小舟 三三三

商 三三七



商變アキガハリ

三七七

揚卷

三四〇

麻手づくり

三四五

字

三四九

あし蟹

三四九

あすかをとこ

三四九

あそ

三四二

あなに、あやに

三四〇

あひ添辭

三六一

不アズ敢ダ

三三六

天なるやささらの小野

三四七

あもてあもて

三四八

荒城田

三四七

あらむを

三四三

有在通用

三九二

或アル有ル

三八四

青雲

三四七

蔓マナ菁ナ

三九五

伊汝

三四三

生死の海

三四八

池神

三四〇

禁イサシ

三五二

異甚

三七三

一時

三九四

いちひ

三四六

いとこ

三四六

ウ

稻寸

三四八

いなも諾ウも

三六三

いはき

三七二

いふヲ略セル

三七〇

いや年のほに

三三九

いや彦山

三四六

いゆしし

三四六

諾ウ

三三六

うたく

三三五

うた人

三四七〇

打ウ麻マ

三四四

うちそやし

三四四

うつたへに

三四五

頸ウ

三三六

オ エ

うなぐ

三四四

うなじ

三三六

うなつき

三三六

うなゐはなり

三三九

うばら

三四二

うま飯

三七八

うまふ(生)

三四二

うまら

三四二

うも(芋)

三九六

卜部

三六一

延言

三三七

おきつ國

三四七

おそろし、おどろし

三四七

おのれかむさび

三四九



カ

大あやの衣 三四三  
 大黒、小黒 三四三  
 おほどれる 三四四  
 おほほしき 三四三  
 解披 三四三  
 高姓 三四〇  
 かがふり 三四七  
 かく四段活ナル 三四七  
 格 三四六  
 かくのみにありけるものを 三四〇  
 かくふ 三四四  
 繫有ツケル 三四九  
 關ツケテ 三四八  
 所聞多カレテ 三四五

肩衣 三四六  
 片山 三四四  
 かつて 三四七  
 縵マフ 三四三  
 葛城王 三四三  
 かつて 三四九  
 かにもかくにも 三四〇七  
 金目八 三四二  
 厠殿カスレ 三四九  
 河原寺 三四〇  
 代カヒ 三四九  
 反カス 三四六  
 かへりたち 三四五

かまけて

三四二

録麻呂

三四〇

神山

三四六

髪あぐ

三四九

かみなし

三七六

神之門

三七六

龜ト

三八二

かもかくも

三四七

かもす

三七八

かや茹るはしに

三四五

故カ

三四三

から鹽

三四三

かるうすき

三四五

韓帶カニヒ

三四三

歌語

三四七〇

カサネ辭

三四七

キ

黄染の屋形

三四七六

吉田キチノ連ムラシ

三四三

きつ(狐)

三四九

黄實

三四〇三

舉藏

三四二七

襟

三四六

くわかくへに

三四四〇

功カに申す

三四七

鏝カキ

三四四

くすり獵

三四六四



尿鮒 三九六  
くそまる 三四二  
美麗物 三八九  
襟 三三六  
頸 三三六  
くひもちて 三四一  
隅 三九八  
熊來 三四七  
黑沓 三五〇  
輕薄 三六六  
けせる著たまへる 三四四  
或 三四〇  
けふらもか 三四二  
けむからむ 三六一

けやに 三四三  
恒賞 三六五  
ここと 三四三  
ここのの兒ら 三六二  
心をおもふ 三三七  
こそ、、物 三九六  
こそノ置所ノ例ニタガヘル 三四〇  
小鯛王 三八九  
ことひ牛 三四九  
事を物を 三四七  
兒の手がしは 三四六  
こひしく 三六〇  
戀力 三四七

ケ

サ

駒つくる土師 三四四  
子産 三四六  
舉藏 三四七  
香 三九七  
細螺 三四一  
皂莢 三四三  
さえ(頭子) 三九六  
さかしらに 三四七  
酒屋 三四九  
埼玉 三四二  
櫻兒 三三七  
ささし 三五六  
さし添辭 三三〇  
刺なべ 三三三

さし翳 三四六  
差す 三四〇  
さす竹の舍人 三五六  
さすひたて 三四〇  
五十戸長 三四六  
さにつかふ 三四三  
さにつらふ 三四二  
さぬつ鳥 三五四  
さびしさぶし 三四七  
不樂 三四九  
さむしつめたし 三四四  
寒水 三四二



シ

さ青ア 三四七  
 之助字 三三三  
 時會 三七二  
 ししが 三五九  
 ししき 三四九  
 媿 三九〇  
 しきに 三四六  
 しき裳 三四六  
 しげき 三四八  
 しげきかりカ 三四八  
 しげししげしき 三四八  
 爾時 三七九  
 しし田 三四七  
 ししびしほ 三四七

而即 三七七  
 爾乃 三三八  
 而乃 三六二  
 した沓 三四九  
 しただみ 三四五  
 しぬぶ 三三七  
 しぬぶらひ 三五七  
 澁溪 三四六  
 脩 三九二  
 正身 三七九  
 若冠 三九二  
 趨 三三三  
 所令ノ如クツカヘル 三四八  
 諸 三四五

ス

しらぎ斧 三四八  
 しらす 三七六  
 しれつ 三六七  
 しろ髪 三六六  
 じを 三八九  
 准枕辭 三四七  
 趨 三三三  
 櫛ハ 三五五  
 すごも 三五五  
 爾乃ナ 三三六  
 登時トキ 三三二  
 墨つば 三四六

セ

ソ

タ

小集樂 三七五  
 小螺 三四二  
 專輒ヲ 三四六  
 走 三四四  
 送糞 三四二  
 俗 三七六  
 袖つけごろも 三三七  
 ぞとや 三五七  
 そのヲ挿ミタル 三四九  
 そぼふる 三四六  
 そめ屋形 三四七  
 蕩々 三四五  
 竹取翁 三三三  
 高屋 三四三



たぎたぐり

三四〇

たたみにさし

三四六

橘寺

三九一

たづき

三四九

たてて

三四三

たに

三四六

たふさき

三四九

田ぶせ

三八六

玉ははき

三四〇

たむ

三四二

檀越

三四六

千鳥

三四七

漆シ

三七〇

つかふる

三四四

つかへむ

三四五

課役カク

三四六

認シ

三四八

角のふくれ

三九〇

つぶれ石

三四九

つまどふ

三四八

舉藏ツマド

三四七

集ツマ

三四七

て

三四二

詔

三三八

手づくり

三四五

堵

三四五

と下ノヲ略セル

三四〇

三四六

ト

テ

チ

ツ

登時

三八二

特鼻禪

三四九

贖慕

三四四

刀自

三四三

年のやとせを

三四〇

詔ミコトノコト

三三八

遠里小野

三四二

とる(殺)

三四三

長雨いみ

三四九

長屋

三九一

なせ(汝兄)

三四三

ななつ條

三四四

何せむに

三六六

三四〇

なはたぎ

三四九

なまる(隠)

三四九

並々

三六六

なむなぶ(隠)

三四九

産業ウツ

三四〇

乃ノ

三三七

にと

三四二

諸

三四五

にヲ略シタル

三六一

三六五

三八二

三四一

三四五

三四四



にヲ略シタル

三四七

にぎ、あら

三四六

につらふ

三四八

にふぶに

三四七

にほす

三四三

にほふる

三四六

仁教

三四三

二句ニ跨レル枕辭

三四〇

二首相聯レル

三四九

又 ぬむ(n,m)ノ別

三四四

額ヌ

三四八

ぬるし

三四一

ノ

爾ノ

三四一

の、欲ホし

三四五

延言

三四七

婆ハ

三四七

仿俚

三四九

はくる

三四七

藐姑射の山

三四〇

士師ハシ

三四四

はしに

三四七

幡幢ハタカ

三四五

はたやはた

三四三

垢カ

三四三

はつ垂ハツ

三四七

はなだ

三四一

ヒ

はなり

三九一

平生ヘ

三三五

經ヘ

三四五

喫ヘ

三四六

はも

三四〇

はやし

三四五

はやす

三四七

婆羅門

三四五

活ノカハレルおほどる

三四四

ひげのそりぐひ

三四五

引帶ヒコビ

三四二

蓋庇廂ヒラシ廂ヒラシ

三四三

日ざらし

三四五

ひしほ

三九九

萬葉集新考 卷十六 ことばの栞

フ

美人

三九〇

斐太の大黒

三四三

ひたひ

三四〇

ひつら

三三六

一夜妻

三四七

ひねひねし

三四七

日のけ

三四二

ひめかぶら

三四五

解披ヒラキ

三四二

非慮之外

三三三

鬢髮

三四五

負

三四三

ふかめて

三七〇

ふくれ

三九〇